

わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

11

2014.11 NO.435

初冬号
第66巻3号



保護者とともにあいさつ運動

生徒と保護者によるあいさつ運動を展開しています。保護者はPTAの役員を中心にあいさつ強化月間に校門であいさつ運動をしています。生徒会や生徒によるあいさつボランティアが、毎日さわやかなあいさつができるように取り組んでいます。

みのしりつみのちゅうがっこう
美濃市立美濃中学校

●【学校の教育目標】「自学自治」

平成24年度4月に美濃北中学校と美濃中学校が再編され、新生「美濃中学校」としてスタートしました。学校教育目標「自学自治」は、文字の通り自ら学び、自ら治めることのできる自立した生徒をめざしています。一人一人が夢をもち、努力に価値を見出し、感動を経験できる学校をつくるよう、地域・保護者・学校が手を取り合って教育を進めています。

岐阜市立鶺小中学校



- 住所 〒500-8288 岐阜市中鶺4丁目189-1
- TEL (058)272-2004
- FAX (058)272-2024
- URL <http://cms.gifu-gifu.ed.jp/uzura-e/>
- メール giso27@uzura-e.gifu-gifu.ed.jp
- 児童数 825名

▲校舎

学校の教育目標 「ゆたかで たくましい うずらの子」 考える子・思いやる子・きたえる子の育成

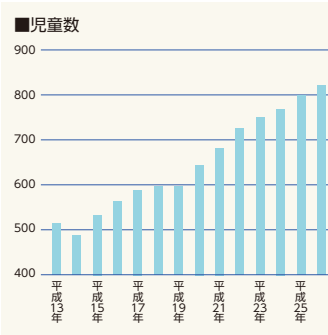
本校は、「ゆたかで たくましい 鶺の子」を育てたい。「いいいな 鶺の子」を育てたい。「いいいな 鶺の子」を育てたい。いいいな 鶺の子を育てたい。「笑顔がいっぱいの鶺小中学校」にしたい。という「三つの願い」の実現を目指して、取り組んでいる学校です。

- ゆたかで たくましい 鶺の子
- ◇考える子=(自分ですんで)考える子
【知・自主性】
 - ◇思いやる子=(仲間と)助け合う子
【徳・社会性】
 - ◇きたえる子=(ねばり強く)やりぬく子
【体・創造性】

- 「いいいな、いいいな、じぶんって、いいいな」
(自己理解・自己有用感)
- 「いいいな、いいいな、なかまって、いいいな」
(他者理解・よさの認め)
- 「いいいな、いいいな、がっこうって、いいいな」
(がっきゅうって)
(集団理解・所属感)

☆笑顔がいっぱいの鶺小中学校(子どもが 教師が 保護者が 地域の方々が)

鶺小中学校の三つの願い



一方、「尾なし龍伝説」で有名な「鶺田神社」などの史跡もあり、地域の学習で、歴史や伝説を地域の方から学んでいます。

「天空の通路」を渡って移動するユニークな学校です。

岐阜市の南部に位置し、もともと豊かな緑と農地に囲まれた所でしたが、交通の便のよさから宅地化がどんどん進み、児童数も年々増加して、現在では八百二十五名になっております。児童数の増加に伴い、校舎の増築も進み、道路を挟んだ向かい側にあるグラウンドや南舎へは、安全のために「地下道」や「天空の通路」を渡って移動するユニークな学校です。

本校は、明治六年に深広寺に「研学義校」として創立。昭和二十五年に「岐阜市立鶺小中学校」に改称され、今年度で開校百四十一年目を迎える伝統と歴史のある学校です。

学校の沿革 地域の様子



▲校舎をつなぐ「天空の通路」

仲間と共に進んで考えを出し合う学習を大切にしています。その中でも、「一人一人が豊かに考えたことを、筋道立てて考えたことを表現し合う学習のために、「話すステップ」「聞くステップ」に基づきながら、自分の表現を高めようと取り組んでいます。仲間と共に学びを深め合える学習を目指しています。

- 豊かに考え、筋道立てて考え、表現し合う「学習」
- 誰にでも笑顔で「あいさつ」
- 異年齢での「なかよし遊び」
- すみずみまできれいにする「もくもく掃除」

三つの願いを実現させる場として、この四つの活動を大切にしています。

学校のたからず ①
三つの願いを
実現する場として



▲グラウンドへは「地下道」で



▲笑顔での「あいさつ」運動



▲ようこそ1年生 「1年生を迎える会」

鶺鴒小学校校歌

作詞 平光善久
作曲 土屋寛恒

一、鶺鴒の 空の 広さから
明るい 希望が わいてくる
空と鳥の 眼のように
するどく 未来を 見たわして
学ぶ ぼくたち わたしたち
鶺鴒小学校 ここに学ぶ

二、伊吹の 峰を 西に見て
伸びゆく からだも たくましく
きれいな 花が 咲くように
濃尾の 平野に 根をはって
育つ ぼくたち わたしたち
鶺鴒小学校 ここに育つ

三、長良の 水の かがやきを
ここに 映して 流れゆく
まぶしい 雲を 呼ぶように
仲よく 手と手をとって
励む ぼくたち わたしたち
鶺鴒小学校 ここに励む



▲運動会で活躍する6年生

朝のスタートは爽やかなあいさつから始まります。児童会の提案により、校門や児童玄関前に、毎朝六年生の全員が集まり、下級生や先生、保護者の方々に対し、相手の目を見た笑顔でのあいさつをしてくれます。それに応えて全校の児童が笑顔でのあいさつを返し合っています。今では、この六年生の働きかけに添えて、一緒にあいさつの輪に加わる児童も増えてきました。また、地域の方々へも進んであいさつできる児童が増えてきました。

四月の「二年生を迎える会」があった後、一年生から六年生の仲間とグループをつくり、様々な活動を通してなかよしの輪（和）を広め、深める活動を大切にしています。六年生を中心にした高学年が様々なアイデアを出し、仲よく楽しい活動を進めています。

「あいさつ運動」「なかよし遊び」を通し、高学年が企画し実践するリーダーとしての力を培っていきたくと思っています。休み時間の終わりの放送が流れると、児童は急いで掃除場所へ向かい掃除の準備に入ります。そして、「一言もしやべらずもくもくと掃除に取り組み、隅々まできれいにする掃除の姿を目指しています。最初はおしやべ

りも聞こえていましたが、今ではもくもくと、隅々まで取り組む姿、ひざを床につけて取り組む姿が多く見られてきました。十二月までには最高の姿になるように頑張っています。

地域のたからもの②

地域に支えられ育まれている学校

本校では、児童を未来の地域を担うかけがえのない「鶺鴒の子」として、家庭、地域と太い絆を築きながら「共に育っていく」ことを願っています。特に、転校生の多い本校にとって地域の方々からの支援は、自分の住む地域に愛着を持つためには必要なことであり、積極的に支援していただいております。

三年生では、総合的な学習で「地域を学ぶ」のテーマに対し、「鶺鴒神社」の歴史や由来、「尾なし龍伝説」について、地域の方から学んでいます。

六年生は、「将来の夢」のテーマのもと、地域の二十七の公共施設・企業などで職場体験・見学をさせていただいています。低学年は、月曜日の放課後の「のびのびうずらっこ」で、地域ボランティアの方々と一緒に楽しい時間を過ごしています。今年は大縄跳び、エアボール遊び、紙工作などの活動をしています。

地域の女性の会、近隣の大学生なども招き、地域の方々との交流を深めています。遊び体験だけでなく、防犯、安全への意識づけを高めるために大声コンテストやシートベルト着用効果体験なども企画していただいています。

高学年は、十二月から二月にかけて「しめ縄づくり」「餅つき体験学習」を進めていただいています。六年生はさらに、「卒業記念タイムカプセル」を青少年育成市民会議の方々の企画により実施し、八年後の成人式で小学校時代の想い出の振り返りと成人への決意を深める「時」をもっています。

この他にも、「うずら見守り隊」「読み聞かせ」さらには「スポーツ少年団」「食育教室」「うずら太鼓」などのスポーツ・文化活動でお世話いただいています。

PTAとは、「うずらサミット」を開催しています。これはPTA役員と児童会の代表が集まり、児童会から「自分達のよりよいくらしを創る」ための提案をし、それにPTAが支援していただいています。この話し合いの成果として、PTAも加わっての「あいさつ運動」が開催され、さらに自分達の生活環境や学習環境がよくなるように、様々な支援していただいています。

毎日、ありがとうございます「うずら見守り隊」



▲毎日、ありがとうございます「うずら見守り隊」



▲真剣に聴き入る「読み聞かせ」



▲楽しい活動「のびのびうずらっこ」

羽島市立福寿小学校



- 住所 〒501-6254 羽島市福寿町本郷1096番地
- TEL (058)391-2382
- FAX (058)391-8982
- メール fukujyue@hashima-gifu.ed.jp
- 児童数 373人(H26.7.1現在)

学校の教育目標 「豊かな心を持ち たくましく実践する子 ーきたえる子 考える子 思いやる子ー」

沿革・地域の自然や風土

本校は、明治六年に羽栗郡本郷村宝蔵寺に「正名学校」として創立しました。昭和二十九年の町村合併にともない、羽島市立福寿小学校と改称し現在に至っています。

校区には、県指定の重要無形民族文化財「平方勢獅子」等の伝統文化や、新幹線岐阜羽島駅や市民会館等の公共の建物、長良川、はす田など環境が整っています。

近年は周辺道路の拡幅整備・住宅等の増加により、市外からの転入も含め徐々に人口が増加しています。

地域の学校教育に対する期待や関心は高く、地域講師等にも快く協力していただけます。コミュニティセンターを中心とした地域行事が活発に行われ、児童が参加したり、交流したりする機会も多くなっています。

学校の教育目標

学校の教育目標「豊かな心を持ち たくましく実践する子・きたえる子・考える子・思いやる子」の育成をめざし、昨年度から「自分で」「自分から」を合言葉に各教育活動に取り組んでいます。

学校のたからもの①

「自分で」「自分から」に挑戦する姿

自分で内容や方法を工夫したり、自分から取り組んだりする姿が学校生活で増えてきました。

① あじさいあいさつ

あじさいあいさつとは「あかいるい じぶんから さわやかにいつでも」行うあいさつのことです。あいさつが広がるよう毎朝六年生などボランティアの児童が児童玄関に並び「おはようございます」と明るくあいさつをしています。進んであいさつをしようという児童が確実に広がっています。また、あいさつ運動に取り組んだ児童は掃除などを行い、ボランティア活動への取り組みが伝統として受け継がれています。

② なかよし遊び

一年生から六年生まで各学年の児童が入るよう小集団をつくり仲良く遊びます。遊ぶことでよりよい仲間づくりをめざします。おにぎり、ドッジボールなどよく知られた遊びもありますが、なかよし集会には児童自らアイデアを出し、新聞紙の紙面を使った「の」の字さがし、ペットボトルのキャップを使った「キャップシュート」などをして

て楽しく遊んでいます。

③ 委員会活動

本校には体育委員会、安心・安全委員会、図書委員会など九つの委員会があります。

体育委員会は、一輪車や竹馬の使い方を提案したり、安心・安全委員会は自然災害を念頭に校内や校外の安全について考え情報提供したりします。放送委員会は、全校じゃんけん大会を企画しました。

図書委員会は業間の休みを利用し、読書を啓発するために紙芝居の上演をしました。高学年の児童が低学年の児童に行う紙芝居はとても人気があります。

委員会活動により自分たちで学校生活を豊かにしています。

学校のたからもの②

音楽活動の推進

① 福寿唱と鼓笛活動

毎年十一月下旬には羽島市文化センターで「福寿唱」という合唱祭を行っています。四月から学級、学年、全校で練習をした成果を披露します。平成二十五年度は、スローガン「とどけよう よろこびと感動」をもとに、学年ごとに「元気」「リズム」「明るく」「気持ちを」に「する」「力



▲紙芝居



▲鼓笛活動

福寿小学校校歌

作詞 三浦康守
作曲 長島謙讓

一、緑の大地 長良川

朝日かがやき 鳥はよぶ
窓をあければ 青い空
高い理想の 光さす
お、

わが学舎は ここに立つ
福寿 福寿 福寿小学校

二、輝く瞳 福寿の児

誓いもかたく 腕くんで
真実の道を 進みゆく
強い心に 誇りあり
お、

わがゆく道を ここに見よ
福寿 福寿 福寿小学校

三、濃飛をめぐる 山々に

希望の鐘は こだまして
夢を育てる 花園に
深い知識の 泉わく
お、

われらが母校 ここにあり
福寿 福寿 福寿小学校

強さ」などの価値を具現する歌声をめざしました。

六年生の鼓笛、各学年の合唱、全校合唱をした後で、「ふるさと」を地域や保護者の方と一緒に歌いました。

鼓笛活動は運動会や岐阜教育会研修大会でも披露しました。

3 学校のたからもの

地域・家庭との連携

① 福のある話

人権教育の一環として保護者や地域の方から「福のある話」を募集しています。「福のある話」とは、ちょっとした心配りで自分や相手の心が温かくなったリ、励まされたりしてしあわせな気持ちになった話のことです。保護者から次のようなお話をうかがいました。

「少し前のことですが、平方の方へ帰る低学年の男子二人、中学年の男子二人が下校しているところを見ました。とつぜん雨がザツと降ってくると大きい子二人しか傘を持っていませんでした。すると小さい子の後ろに立ち傘をそつとさして歩いて帰っていました。

自分たちはぬれているのに、なんて優しいのだろうと胸があたたかくなったことがあります。小さい子達を思いやる気持ち

ちが立派だなと思いました。」お話をいただく全校放送で児童に紹介します。また、学校便りで回覧したり、廊下に掲示したりし、保護者や地域の方に紹介しよさを共有できるように努力しています。

② 米づくり

毎年、地域の方のご協力を得て、五年生の児童が学校近くの水田で、米づくりを行います。地域の方や、県農業改良普及センターやJA羽島中央支店、市役所農政課の皆様に米づくりを教えていただきます。

今年度も「手植えの方が機械で植えたよりもたくさん米ができるんだよ。」田んぼの中はかかとまで踏みこむと足が抜けなくなるからつま先で歩くんだよ。」などと、手植えの意味や歩き方、植え方などを学び、有意義な学習になりました。

③ お年寄りとの関わり

長寿をお祝いする敬老会や、平方・浅平・本郷・間島の四つの地区のふれあいサロンに四年生の児童が出向き、地域のお年寄りの方と交流をしています。

地域の方から「優しい言葉をかけていただきうれしかった。」「いただいたプレゼントは宝物にします。」などのお言葉をいただきました。



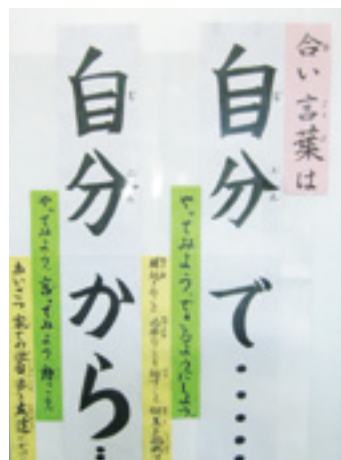
▲新聞紙を使った「の」の字さがし



▲福寿唱



▲米づくり



▲自分で 自分から

関市立寺尾小学校



●住所 〒501-2601 関市武芸川町谷口2316
 ●TEL (0575)37-2314
 ●FAX (0575)37-2981
 ●メール terao-e@edu.city.seki.gifu.jp
 ●児童数 34名

▲寺尾小学校校舎

学校の教育目標 **豊かな心をもち、自ら考え、ねばり強くやりぬく子** やさしく かしこく たくましく

沿革 地域の自然や風土

本校は、明治八年に伊勢屋という民家を借用し啓蒙館として創立されました。昭和二十二年に東武芸村立寺尾小学校となり、平成十七年には市町村合併に伴い現在の関市立寺尾小学校となりました。今年度で開校百四十二年目を迎える伝統と歴史ある学校です。

地域には、標高三〇メートルの寺尾峠と寺尾地区を結ぶ県道沿いに桜の名所「寺尾ヶ原千本桜」があります。昭和二十七年に住民の手により植えられた桜は、四月上旬から中旬にかけて見事な「桜のトンネル」を作り、県内外から多くの花見客が訪れます。「こたけの桜のトンネルくぐりぬけ」（児童作品）本校からも毎年四月にはお花見に出かけ俳句を作っています。

地域は豊かな自然に囲まれ寺尾谷に沿った三つの集落があり昔は紙すきが主要産業でした。しかし、交通の発達や道路の整備と共に紙すき業からの転業が進み地区外へ職場は移動していきました。同時に過疎化が進みました。現在、児童養護施設が校区にあり、児童数も地元児童は一割ほどとなっています。

学校のたからもの① あすなる体験活動

本校では、一～六年生までの縦割りグループが主体となつて、地域の人々とともに自然体験活動、交流活動をするを通して人との関わり方や自然の尊さとして貢献する態度を養うために、あすなる体験活動に取り組んでいます。

五月に「あすなるハイキング」七月に「あすなる川遊び」十月に「寺尾小祭り」を実施しています。「あすなる川遊び」では班ごとに川遊びの内容を計画し、遊び道具を作成します。魚釣り、ペットボトルカヌー、竹製水鉄砲、宝探しなどを行います。さらに、保護者や地元の漁協さんの協力を得て、鮎の放流や鮎つかみ体験も実施しています。

また、「寺尾小祭り」の実施に当たっては、地域団体の代表で構成する「寺尾小の子どもを守り育てる会」で事前打ち合わせを行い、参加内容を確認し、参加者を募ります。児童が招待状を作成し、参加を呼びかける活動を行います。昨年度は参加者数合計百二十名でした。全参加者を十一グループにわけ、グラウンドゴルフ、紙飛行機大会、もちつきとすべて同

じメンバーで活動し、お互いに名前前で呼び合うことでより親近感を増すことができました。参加者からは、「たくさんの方が来て下さって本当によかったですね。もちつき、グラウンドゴルフ、一緒に楽しいひと時でした。紙飛行機を一緒に飛ばすことができて本当によい一日。心が和みました。ありがとうございました。」という感想が寄せられました。

学校のたからもの② 寺尾っ子タイム

本校の総合的な学習の時間、生活科の学習を「寺尾っ子タイム」と言います。地域の諸団体の方を講師に招き、地域に伝わる伝統行事や、福祉施設、自然環境について体験的な活動を通して学び、地域に対する愛着を深めることをねらい、次の様な活動を実施しています。

①敬老会「白寿会」との交流活動

毎年六月に「ちまきづくり学習」を低学年で実施しています。当日は、児童より多い白寿会の方が来校していただけます。「二での指導を通して、地域の方との交流を深めることができます。ちまきづくりは小麦粉をこねて、丸めて、包んで、巻いての二連の作業で、根気が要ります。でも、最後に蒸して食べるときは



▲白寿会の方と一緒に、おいしいちまきの出来上がり



▲「あすなる川遊び」鮎つかみ体験



▲「あすなる川遊び」ペットボトルカヌー体験



寺尾小学校校歌

作詞 野村芳兵衛
作曲 安宅 進

一、流れも清き 寺尾谷
あちらの谷から こちうから
ここの記章をつけた子が
集うて 寺尾小学校

二、東の山では 小鳥たち
チイックチイック 朝の歌
わたしたちも 歌おうよ
歌うて 寺尾小学校

三、山で生まれた 寺尾の子
からだも強いが 考えて
はたらく人に 育つため
学んで 寺尾小学校

四、バスにゆられて 寺尾坂
越えて巣立ちを する日まで
教えられたり 教えたり
ああ わが寺尾小学校



▲「お茶摘み交流会」美谷の里の方と一緒に茶摘み

満足感いっぱいです。さらに、運動会での交流種目参加への招待状を作成し、交流を継続しています。

②福祉施設「美谷の里」との交流活動

中学年では、毎年五月に「お茶摘み交流会」を実施します。はじめは、「美谷の里」の障がいのある方に声をかけることができない児童が多いのですが、相手の方からの働きかけに徐々に打ち解けることができます。「苳三葉」の茶摘みの仕方を知ること

で児童は夢中になって取り組みます。摘んだ茶葉は乾燥させてから届けていただき自分たちでお茶を沸かし飲みます。九月には運動会での交流種目を実施します。十二月には施設訪問を行います。十二月には施設訪問を行います。施設の形態について学びます。これらの活動を通して、福祉施設で生活する方々への理解を深めることができます。また、休日自主的に園を訪問し、交流を行う児童があり、お互い名前を呼び合うなど関わりを深めています。

③「NPO法人自然生活共生会」による自然学習

高学年では、毎年六月に「ホタル学習」を実施しています。校内にある「螢の学び舎」を活用して、ホタルの幼虫を観察したり、ホタル保護の活動について話を

聞いたりしています。七月には発展学習として地域の「ほたる祭り」に参加します。ホタルを通して寺尾の自然の実態を知るとともに地域の人たちとも触れ合うことができます。さらに、植樹体験や千本松周辺の清掃活動を行うことにより、地域の自然を守る員としての自覚を高めています。

④寺尾式ユニバーサルデザインによる授業

本校では昨年度よりユニバーサルデザインを取り入れた「わかりやすい授業」づくりに取り組んでいます。今年度は特に次の二つのことに力を入れていきます。

①視覚刺激や聴覚刺激を少なくする学習環境づくり

- ・黒板にはプリントを継続して貼り続けません。
- ・掲示物は四隅を固定します。
- ・掲示物は見出しをつけます。
- ・掲示に使用する色調は落ち着いた感じにし、刺激の強い色は避けます。

・教室前面の掲示物は全校統一し、限りなくすっきりします。

・教室での音声刺激（水槽のポンプ、机椅子の軋み等）を極力減らします。

②ユニバーサルデザインの視点を入れた授業展開の工夫

- ・授業は机上の整理整頓をしてから開始します。
- ・目で見てわかりやすいカードや電子黒板を活用し、板書は図や矢印を使うなど視覚化を図ります。
- ・指示や発問は一度に二つの内容で、端的に伝えます。
- ・個に応じた学習プリントやヒントカードを準備し、自力で考える時間を位置付けます。
- ・学習のまとめは板書をもとにキーワードを用いて自分の言葉で言わせたり書かせたりします。

このような取組や工夫を学級や学年の実態に応じて丁寧に進めることで児童の授業への意欲や集中力を高め、確かな学力の向上を目指しています。



▲「寺尾小祭り」藁馬の花みこしをつって校庭を練り歩きます



▲視覚的にわかりやすい電子黒板を使った授業



▲「ホタル学習」地域のほたる祭りに参加



▲「寺尾小祭り」お年寄りの方とランドゴルフ大会

郡上市立郡上東中学校



●住所 〒501-4510 郡上市和良町法師196番地1
 ●TEL (0575) 77-2108
 ●FAX (0575) 77-2205
 ●URL <http://www.gujo.ed.jp/~gujohigashijh/>
 ●メール gujohigashi-chu@gujo.ed.jp
 ●生徒数 52名



学校の教育目標 夢に向かって叡智を磨き 心と身体を鍛える生徒

本校は、平成二十三年四月、西和良中学校と和良中学校の統合により、新しく開校された学校です。これまでの両校のよさを残しつつ、郡上東中学校としての新たな伝統を築こうと、教職員と生徒が「丸」となっており、学校づくりに取り組んでいます。

また、新しい学校ということとで、地域の期待も大きく、PTA活動をはじめ、保護者や地域の方々からも学校教育に対して、惜しみない支援や協力をいただいています。

校区は、郡上市の東部に位置

沿革・地域の自然や風土

郡上東中学校 学校教育目標

夢に向かって叡智を磨き心と身体を鍛える生徒

- 固い絆と思いやりをもつ（共生）
- 主体的に学び知恵を育む（自立）
- ひたむきに努力しやり抜く（創拓）

学校の教育目標

する八幡町美山・入間・洲河と和良町にわたります。神話や伝説のゆかりの地、神秘的な鍾乳洞、美しい滝、オオサンショウウオや日本一の鮎を育む清らかな水など、自然豊かで、山々の緑が目にあふしく、清流のせせらぎが耳に優しい地域です。

命をつなぐ防災学習

「避難中にケガをしたおじいさんを発見。二人で病院に運ぶため担架を作ろうとしたが、適当な棒がない。どうする？」

学級担任の問いかけに、生徒たちが思い思いのアイデアを交流します。朝活動「防災ショートトレーニング」の時間です。



▲朝活動「防災ショートトレーニング」

本校では、県より「防災教育推進校」の指定を受けた平成二十四年度より継続して、「地域ぐるみで命をつなぐ防災教育」をテーマ

に、校区の二小中学校と連携を図りながら、義務教育九年間を見通した防災カリキュラムの開発と地域との防災連携に取り組んでいます。「防災ショートトレーニング」も、そのカリキュラムの環です。

また、地域との防災連携では、毎年八〜九月に行われる地域防災訓練に参加したり、地域のハザードマップづくりに取り組んだりして、地域での連帯感を強めています。

中学生は、災害が発生した場合、自分の命を守るために最善を尽くすことはもちろんですが、高齢化が進んでいる本校区では、地域を守る支援者としての活躍が期待される場合もあります。

命をつなぐ防災学習を通して地域とつながり、災害に向き合う姿勢や行動力、防災に対する意識や知識を高めています。



▲地域の一員として参加する地域防災訓練



▲地域ハザードマップ

伝統文化を学ぶふるさと学習

「♪郡上のナ 八幡 出て行くときは〜」ア ソンレンセ」

笛、太鼓、三味線のお囃子に乗せて、郡上踊りの軽快な地唄が校舎内に流れます。地域で活躍する講師の先生に学ぶ「ふるさと学習」の時間です。

本校では、平成二十三年度の開校当時より、二・三年の総合的な学習の時間の中で「ふるさと学習」に取り組んでいます。

ふるさとに伝わる伝統文化である「郡上踊りお囃子」、「郡上陣屋太鼓」、「神楽笛」、「陶芸を学ぶ」ことを通して、生徒がふるさとに対する郷土意識を高めたり、興味関心を広げたりしています。

特に、地元の達人として現在もそれぞれの伝統文化に携わる地域講師の方々から直接的な指導を受けたり、地域の各種イベント（夏祭り、盆踊り、神社祭り、老人介護福祉施設訪問等）で学習成

郡上東中学校校歌

作詞 校歌作成委員会
作曲 和田晴美

一 東峰より ふりそそぐ
輝く朝日 受けとめて
広がる未来 望みつづ
心と身体 鍛えゆく
ああ 郡上東中学校

二 水面きらめく 清流に
若鮎おどり 緑映ゆ
真理の光 求めつづ
希望にあふれ 夢かける
ああ 郡上東中学校

三 気高き信念 胸に抱き
清しみなざる 学舎に
熱き絆を 結びつづ
仲間と共に 磨き合う
ああ 郡上東中学校



▲「岐阜県ふるさと教育表彰」優秀賞

果を発表したりすることによって、一人が自信をもって活動をしています。

また、三年生の中には、昨年度と同じ内容を選択して学習し、二年間を通してより高い知識や技能の習得を目標としている生徒もいます。

平成二十五年度には「岐阜県ふるさと教育表彰」優秀賞を受賞し、「ふるさと学習」は本校の伝統として位置付けつつある活動です。



▲生徒が演奏するお囃子に合わせて、地域の盆踊りが行われます。



▲獅子が舞う神楽笛。地域のお祭りで披露します。

学校のたからもの③ 環境を考える 森林学習

「郡上東中学校の木造校舎には、和良の山林の木がたくさん使われています。」

地域講師の方のお話に、生徒たちは、思わず天井や床、壁面を見回します。二年の総合的な学習の時間「郷土と森林」の学習での場面です。

本校は、一・八八ヘクタールの学校林を有しています。そこでの学習や森林への興味を深める体験活動を通して、自分たちの生活と環境について考える学習を進めています。



▲郡上東中学校学校林

一 学校林について知ろう

今年度、実施した活動を紹介しします。

和良財産区管理組合の方を講師に招き、学校林の概要を説明していただいたり、学校林を案内していただいたり、木々の保護や

育成、活用について現地で実物に触れながら教えていただいたりしました。



▲管理組合の方から、現地でお話をお聞きしました。

二 円空彫りに挑戦しよう

円空彫りの達人を講師に招き、彫刻作品を制作しました。木材を使った作品作りを通して、木や森林、自然への関心を高めました。



▲達人の技に学ぶ円空彫り教室

学校のたからもの④ 人権を考える 生徒会活動

「思い」「一人」「差別をせず」「真心」の頭文字を取っておひさま宣言」

平成二十四年度の生徒会が、全校生徒「一人」の願いを集約して制定した郡上東中学校の人権宣言です。毎年、生徒会がその精神を引き継ぎ、人権アンケートの実施と分析、人権集会の開催等を行っています。

特に人権集会では、アンケート結果から見られた学年の課題を交流し、全員挙手で意見を述べ合うことで、いじめや差別を許さない気風が醸成されています。また、集会後には学級活動を行い、クラスの課題を解決するための手だてを話し合います。行動レベルでの具体目標を立てて、次の人権集会実施日まで取り組みます。生徒たち自身が、自分たちの手で「いじめ0の学校」づくりに励んでいます。



▲人権宣言「おひさま宣言」



一男二女の子どもたちは、何と言ってもわが家の宝物です。現在、娘は高校二年生と中学二年生になり、末っ子の息子は小学五年生になりました。まだまだ小さかった頃の記憶が冷めやまないうちに、あつという間に大きく成長しました。今では可愛かったばかりの昔と違って、それぞれの思いや考えが出てきて、生意気なことを言うことも増えてきましたが、これも成長の表れだと感じています。そして何よりこれまで大きな病気もせず健康に育ってくれたことに大変感謝しています。

高校二年生の長女は来年には受験を控えており、具体的な将来の夢に向かって踏み出しています。中学二年生の次女は部活動のソフトテニスに力を入れて日々頑張っています。小学五年生の長男は陸上競技とピアノに力を入れており、特に陸上では八十mハードルを専門種目にして、来年は全国大会に出場できるように練習に励んでいます。

近い将来には、それぞれの夢に向かいこの家を離れる時が来ると思います。その時、おそらく親は淋しい思いをするかもしれませんが、子どもたちが独り立ちをし、「社会人として活躍してくれること願っています。

これからの永い人生、嬉しいこと、悲しいこと、苦しいこと、様々な経験をすると思いますが、たった一度の人生なので、悔いの無いように思う存分楽しんでもらいたいと思います。そしていつか自分たちの思いや、存在した証を、次の世代へ繋げていってほしいと思います。がんばれ！わが家の宝である、わが子どもたち。

わが子のあゆみ

2014.11 No.435 初冬号

表紙 美濃市立美濃中学校

学校のたからもの 1

岐阜市立鶯小学校／羽島市立福寿小学校／関市立寺尾小学校／郡上市立郡上東中学校

わが家の宝物 関市立倉知小学校PTA会長 古田貴巳 9

特集 定期大会講演抜粋<後編>「子どもの心のコーチング」 11

NPO法人 ハートフルコミュニケーション代表理事 菅原裕子さん

家庭教育応援団! ⑬ 海津市立下多度小学校 岐阜市立岩野田中学校 17

シリーズ「療育」⑩ 岐阜県立長良特別支援学校 19

お弁当の日 恵那市立武並小学校PTA 21

保健室ノート 下呂市立下原小学校養護助教諭 成美愛子 23

私の先生⑬ 瑞穂市立穂積中学校教頭 古田隆洋 25

子育て半生記 加茂郡白川町立白川北小学校PTA会長 長尾弘巳 27

ボランティアニュース [vol.2] 29

岐阜市立島小学校PTA

岐阜市立三里小学校PTA

岐阜市立三輪北小学校PTA

岐阜市立柳津小学校PTA

私が出会った1冊の本【続19】 31

養老郡養老町広幡小学校PTA会長 伊藤賢治

羽島郡岐南町立岐南中学校PTA会長 柘植靖貴

わが家のルール 33

瑞浪市立陶小学校PTA会長 東川真澄

下呂市立金山中学校PTA副会長 河尻茂美

親子ではてな 40

インフォメーション 41

お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42

りんごのカップケーキ

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い

加茂郡八百津町立八百津小学校 3年 わたなべたかひと

海津市立東江小学校 6年 森万祐子

羽島市立竹鼻中学校 3年 加藤花梨

親の願い

美濃市立大矢田小学校PTA会長 別府徹也

飛騨市立山之村中学校PTA会長 上家雄仁

教育の窓

中津川市立福岡小学校教頭 青山智彦

各務原市立蘇原中学校主幹教諭 水谷武志

ふるさとの伝承

海津市立下多度小学校 43

きらり!キッズ!

山県市立伊自良南小学校 45

夢中!熱中!我らが部活

海津市立城南中学校 47

私たちのPTA

瑞浪市立瑞陵中学校 49

定期大会講演抜粋へ後編▽

「子どもの心のコーチング」

NPO法人
ハートフルコミュニケーション代表理事

菅原裕子さん



※平成26年6月12日に行われました第35回定期大会記念講演の内容を抜粋して掲載しました。編集部

◇三つの力、その二「責任」

二つ目です。責任を教えましょう。

責任って、大人になってから取るものでしょうといわれますが、この責任は、子どもの時にしか学べません。大人になってから取る責任は「役割責任」と言いますね。よく「申し訳ありません」と頭を下げていらっしゃる。あれは役割責任です。これからお話しする責任は、頭を下げなくてもいいようになる責任です。

日本語で責任というと、ちょっと解りづらいので英語のレスポンスをしましょう。レスポンスイビリティ。これは二つの言葉で出来て

います。レスポンスとアビリティ。レスポンスは反応、アビリティは能力。つまり責任とは、反応する能力のことである。自分の目の前で起こっていることに反応していく能力ですね。これを、責任と言います。

例をあげてお話しをしましょう。

三歳のお子さんと食卓を囲んでいる時を想像してください。その時、三歳の子どもが水をこぼしました。皆さん、どうなさいます？会場の方に聞いてみましょうね。マイクどこですか？はい、どうなさいますか？「テーブルを拭きます」、誰が？「私が拭きます」、お母さんがね。はい、そうですね。普通子どもが三歳だったら、お母

さんがテーブル拭きますよね。

想像してみましょう。三歳の子どもが水をこぼしました。お父さんもお母さんも「あーっ」って言うて待ってたら三歳の子はどうすると思います？

◇反応する能力

実はこの話がある保育園でしました。東京の練馬区の保育園で、夜、お父さんやお母さんが集まってくださってお話しをしました。あるお母さんがお兄ちゃんを膝の上に乗せ、赤ちゃんはフロアリングの床に座布団を敷いて寝かせて。お兄ちゃんはお母さんに向き合うように、膝に座っていました。「お兄

ちゃんが水こぼしたら、お母さんはどうしますか？」って聞いたんですね。そしたら、お母さんが「拭きます、私が拭きます」って答えてくださいました。

じゃあもし、二歳六カ月のお兄ちゃんが水をこぼしたら、お父さんもお母さんも「あーっ」って待ってたら、お兄ちゃんどうすると思いますか？」って聞いたんですね。するとお母さん、「えっ…」。しばらく膝の上のお兄ちゃんと目を合わせて、約五秒。答えないんですね、お母さん。そうしたら何と、保育園中に響くような大きな声で「ママ、ぼく拭くよ」。そこに居た親たちも保育士さん達も大笑い。二歳六カ月すごいなと思いました。拭

「子どもの心のコーチング」

くことがすごいんじゃないくて、私の話を全部理解していたことです。お母さんが答えられないので、これは大変だ。じゃあ代わりにぼくが答えよう、思っただけでしょうね。

◇モデルから学ぶ

どうして二歳六カ月のお兄ちゃんが、「ぼく、拭くよ」と言えたのでしょうか。

人間は、モデルから何かを学び取るんですね。二年六カ月の間に、水がこぼれたときに母か父がそれを拭くのを見てきました。テーブルに水がこぼれたら拭くのね。彼はもう覚えていました。

そこで、怒っちゃダメですよ。「何やってんの！」って怒ったら、子どもの脳みそフリーズします。恐れて体も心も動かなくなる。出来ることは泣くことぐらいですね。三歳ですからきれいには拭けません。びちゃびちゃ遊んでいるかもしれません。

でも、親は思うんです。三歳だからまだ出来ない。だから親が拭くんですね。すると三歳は見ています。五歳になりました、親が拭



きます。十五歳になりました、親が拭きます。十八歳になりました、親が拭きます。「早く拭けよ」という態度です。子どもの能力と言う

のは、訓練しないと育ちません。でも訓練したら、いか様にも伸びる素晴らしい能力です。これが、問題解決能力です。目の前で問題が起きた時、「どうしたらいいか、何かしなきゃ」と考えて、あれやってみよう、これやってみようと思うのは、これは三歳の時にテュールを拭き始める第一歩です。もっ

◆子どもの仕事は「自分で起きる」

と早い時期に始まっているでしょうね。そのあたりから仕事を任せられたときの反応が、子どもの中に育ってきます。

もうひとつ例をあげて話してみ
ましよう。

小学生、中学生を育てていらっしゃる皆さんで、朝、子どもを遅刻させないために起こしているという方、ちよつと手をあげていただけですか？多いですね、やっぱ

ある一定の時間に、遅刻しないために自分で起きる。これ誰の仕事でしょう。子どもの仕事ですよ。最近、誰の仕事？って言うのと、私の仕事」というお母さんがいらっしやって、話が前に進まなくて困ることがあるんですけれど、ここでは理解が共有できていますね、子どもの仕事です。

それでは、七時に起きて子どもが学校へ行きます。そうすると時間的に余裕があつて快適に一日が始まります。ところがある朝、朝寝坊しました。七時半に起きて、

慌ててご飯食べて学校へ行ったんですけど、遅刻をしてしまいました。遅刻って、けっこう気づまりなものです。授業が始まっているところへ入っていくと、先生に横目で見られて、隣の席の友達に「シッ、シッ」とか言ってからかわれて、子どもはいやな思いをします。

もちろんこれくらいで不快を感じる子と、もっとしないと感じない子がいます。これは気質の違いです。でも、必ず人はどこかで不快を感じます。人間、不快を感じると葛藤します。考えます。考えて葛藤して、七時半に起きて、遅刻して、いやな思いしたんだから、じゃあ七時に起きて学校へ行ったり快適じゃんと人間はおそらく一歳を過ぎたあたりから、この原因と結果の法則を学びながら大きくなっていきます。

◇起こされて遅刻した子

ところが、七時半にお母さんに起こされて遅刻した子。帰ってき
て何と言うと思いますか？ちよつ
とお母さんに聞いてみましょう。
お母さんじゃないとダメです。は



い。「何でもっと早く起こしてくれなかったの」。つまり、この遅刻は誰のせい？「お母さんのせい」。そういうことです。でも、これは理にかなってますよね。原因作った誰れ？お母さんです。お母さんが作った原因で、自分が嫌な思いをするわけです。こんな理不尽は世の中にはない。その理不尽さを持って帰って「お母さんが早く起こしてくれなかったから！」って怒りをぶつける。こういう人のことを被害者と言います。

しかし、わが子を被害者に育てる必要は無いと思います。もし子どもが自分の身の回りのことは全部自分の仕事だと知っていて、自分でその仕事に対応できるようになれば、子どもはこの原因と結果の法則の中で、自分の結果が気に入らなかつたら自分の力を変えられるということをし、育つ過程で学んでいくんですね。人生って自己次第だって言うことを学んでいくんです。

◇問題解決能力

そうすると、何が起ころって、「ああいやだなこれ、じゃあちよつと

こうしてみよう、ああしてみよう」と、問題解決能力の高い子どもたちが育っていきます。つまり、子どもの仕事は子どもに任せていくことなんです。私たちがどんなに子どもの仕事を代りにやってみても、子どもの能力は高まりません。子どもが自分の手で問題を解決したときだけです。

どうですか皆さん。もう、子どもが自分で出来るのに、未だに手を出していること無いですか？子どもが自分で十分考えられるのに、親が結論出して「こうしなさい」って、口出しているようなことはないでしょうか？

親の家というのは、子どもが訓練を受ける場所です。親の家の中で十分に愛され、そして十分に訓練を受けて、ある子どもたちは親の家を出て自分の人生へと巣立っていきます。

ところが、親の家の中でその訓練が十分に受けられなかった子どもは、外に出ていくことに恐れを感じようになります。その究極が、ひきこもりではないかと、私は感じています。子どもたちに、自分の問題を解決する力があれば、

いか様にも自分から世界へ飛び出していける。子どもの仕事を子どもに任せてください。子どもが出来るのに、未だに手を出していること無いですか？

◇自分のことは自分で

私の友人の例を一つお話ししたいと思います。私の友人は三人のお子さん長女、長男、男の末っ子がいたんです。末っ子が中学生になった時の話です。その子は野球が優秀で、小さい時からやってきました。お母さんの仕事は、その子が野球で実力を発揮する、そのための環境づくりをすることでした。

末っ子が「ただいま！」って帰ってくると、玄関にスポーツバッグを置きます。するとお母さんがバッグを開けて、中に入ってるものを全部を出して、洗って、乾かして、たたんで、バッグに入れて玄関に置く。すると次の日の朝、その子はバッグを持って出かけていきます。私の話を聞いた時「あつ」と思ってたそうです。

ある日お母さんが、ストッキングを片方入れるのを忘れたそうで

す。そしたら、その日に帰ってきた末っ子がお母さんに、「練習が出来なかった！」って怒る、怒る。ちゃんとするようにと怒鳴ったそうです。ごめんなさい、これからは、気をつけるからって謝った。でも、これってあの子の仕事よね。

お母さんは私の話を聞いて、家に帰ってその子に言ったそうです。「私は大きな誤解をしていて、あれはあなたの仕事であるにもかかわらず、私がそれを肩代わりすることによって、あなたの判断能力が育つてなかったことが初めて分かった。本当に申し訳なかった。」と謝って、洗濯機から出した。すると息子は「ああ」といって、それから全部自分でやるようになった、ということでした。

その後のある日、リビングにユニフォームのズボンが置いてあったそうです。ストッキングどころかズボンが無かつたらどうするの？って思ったそうですけど、いやいや息子の問題、息子の問題、と思ってそのままにしたそうです。その日帰ってきた息子、何にも言わないんです。無かつたら、ジャージで練習した、って言うんです。お母さん、がっかり。

「子どもの心のコーチング」

いったい私のしてきたことって、何だったの？自分であきれたそうです。

◇痛い目に遭わないと分らない

子どもはその場その場で『問題解決』できるのに、お母さんにしてみれば、「私がやってあげなきゃ」というその思いだけで、結局、子どもの反応能力を遅くしてたのは私だった、ということです。

父性は言うんです。「痛い目に遭わないと分らない」って。実は、責任を教えるのは父性の仕事で、痛い目に遭わないと人間は学びません。

親の家の間に居る間に、親の翼の下に居る間に、不快が小さい不快であるうちに責任を学ばせてあげることです。親の家から出て親の翼から外へ出てからの責任は、物凄く重いんです。極端な話、犯罪にさえなります。

責任を学ぶなんて、小さい頃に親のもとに居る間に、小さな不快のうちに学んでいればどうってことないんです。

◇三つの力、その三「人の役に立つ喜び」

三つ目です。人の役に立つ喜びです。

私は、おそらく人間の究極の幸福は何かと言われたらこれではないかと思います。私は何かの役に立って。私は誰かの役に立って。これがたとえ家族であれ、地域社会であれ、何であれ、誰かの役に立てる存在であるその自分を誇りに思うことが出来ます。

誰の中にも、これはあります。そうでありたいという思いが、ただこれは引き出しておいてあげないとなかなか形になって、人の役に立つ行動にまで行きつきません。なので、できれば幼いうちに親と一緒に暮らす間に、子どもの中に人の役に立つ喜びを育てていきたいと考えます。

じゃあ、どうやったら子どもの中に人の役に立つ喜びを育てることが出来るかということですが、基本的に、親の家の中で親の役に立つ事を教えることです。親の役に立つ喜びを知っている子どもは、その関係性を世の中に持って出ていきます。人間の、人に対する関



係性というのは、基本的に親と自分との関係性です。それをそのまま世の中に持って出ます。ですから子どもは、親との関係の中で常に親に対して役に立ちたいという思いで親の役に立っている子は、外へ出て誰かの役に立とうとします。学校に行けば、先生の役に、友達の仕事にも立とうとします。

なので、親の役に立つ喜びを、教えてやってください。これは、子どもにとつて物凄く大事なことです。人間、幼い子どもにとつて親の存在は物凄く大きいのです。その大きな存在であるこの人の役に自分が立てることは、とても大きな喜びです。

◇親の役に立つ喜び

親の役に立つ喜びをどうやって教えますか？お手伝いですね。どうですか、皆さん。小さいころからお手伝いに、手伝いしてもらっていますか？これは、面倒くさいからやっという、というそういうお手伝いじゃないですよ。子どもに、人の役に立つ喜びを教えるためのお手伝いです。お母さん、この時間忙しくて困ってるの、あなたがこれしてくれるとすごく助かるわ、お願いしていいですか？ちゃんとお願いして、お手伝いをしてもらおう。また一緒にやってくれる？とお手伝いをやってもらうことです。

親の役に立つてもらったら、とても大事なことは、子どもを褒めてはいけません。褒めないでください。子どもはほめて育てると言われて、褒めて褒めて、褒めて育てて、今時々ご相談がある中で、褒めすぎて問題になっているケースもあります。褒めるって、なかなか難しいですね。

◇お手伝いの後の言葉かけ

今日は、手伝ってくれた時、子

どもが親の役に立つてくれた時限定で、一つ学んでいってください。

褒め言葉は、あなたメッセージです。何か手伝ってくれた時の褒め言葉は「えらいわねえ、あなたいい子ね」って。これらの主語は全部「あなた」です。これ、実はあまり教育的効果は高くないんです。あまり子どもは学びません。

でも、私メッセージでこれを伝えるとしたら、非常に教育的効果が高いんです。ちょっと聞いてみましょう。皆さん、どう言われますか？はい、「助かったわ」。そうですね、「ありがとう」。もう一つは「うれしい」です。セットで覚えておいてください。これの主語は全部「私」なんです。

◇私が主語のメッセージ

なぜ私メッセージは教育的効果が高いかを説明します。

子どもが何かをしたとき、「ああ、あなたがそれしてくれて、私うれしい」というメッセージは、子どもの中に自分の言動の影響がどのように表れるかを教えるメッセージなんです。つまり、「手伝う」というこの行為が「母がうれしい」。

あ、自分が手伝うと、母がうれしいんだ。これを繰り返し繰り返し学んでいった子どもは、最終的に共感性を身につけます。共感性というのは、相手の気持ちを感じることでできる能力です。これが役に立つのは、思春期になってからです。何かを、ぐーっとやろうかと思ったときに、ほくがこれやるとアノ子悲しむ。あ、やらない方がいい。最近の子には、この共感性がほとんど育っていないと言われています。だから自分が何かをやった時に、まわりにどんな影響が及ぶのかということを知らないままやっちゃいますから「あーあ」ということになる。

叱るときもまた、私メッセージは非常に有効だと言われています。「ちょっと待って、それやるとお父

さん困るんだ」と言うと、僕これやる↓父困るという、この構図を教える。これを繰り返し繰り返し、この構図で子どもの中に共感性や、ありがたうという感謝の気持ちが育ちます。私メッセージで伝えることを、ぜひしてみてください。

◇「愛すること」「責任」

「人の役に立つ喜び」

親の役に立てる存在と言うのは、自分でそれを知ってとても大きな喜びを体験することが出来ます。以上三つですね。「愛すること」「責任」「人の役に立つ喜び」。この三つを教えることに成功したら、子どもは自然に育っていきます。

先ほども申しましたが、愛することを教えるのは母性です。必ず



しもお母さんというわけではありません。責任を教えるのは父性。必ずしもお父さんというわけではないですが、お父さんの方が父性は高いです。そして、人の役に立つ喜び。この三つを教えましょう。今日は、有難うございました。それでは最後に、皆さんに物語をプレゼントして終わりにしたいと思います。

◇「ひび割れ壺」の物語

インドのある水汲み人足は二つの壺を持っていました。天秤棒の端にそれぞれの壺をさげ、首の後ろで天秤棒を左右にかけて、彼は水を運びます。その壺の一つにはひびが入っています。もう一つの完璧な壺が、小川からご主人様の家まで一滴の水もこぼさないのに、ひび割れ壺は人足が水をいっぱい入れてくれても、ご主人様の家に着くころには半分になっているのです。

完璧な壺は、いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼がつくられたその本来の目的をいつも達成することができたから。

ひび割れ壺はいつも自分を恥じ

ていました。なぜなら、彼がつくられたその本来の目的を、彼は半分しか達成することができなかったから。

二年が過ぎ、すっかり惨めになっていたひび割れ壺は、ある日、川のほとりで水汲み人足に話しかけました。

「私は自分が恥ずかしい。そして、あなたにすまないと思っている。」

「なぜそんなふうに思うの?」

水汲み人足はたずねました。

「一体、何を恥じているの?」

「この二年間、私はこのひびのせいで、あなたのご主人の家まで水を半分しか運べなかった。水がこぼれてしまうから、あなたがどんなに努力をしても、その努力が報われることがない。私はそれがつらいんだ。」

壺はいいました。

水汲み人足は、ひび割れ壺を気の毒に思い、そして言いました。

「これからご主人様の家に帰る途中、道端に咲いているきれいな花をみてごらん。」

天秤棒にぶらさげられて丘を登っていくとき、ひび割れ壺はお日様に照らされ美しく咲き誇る道端の花に気づきました。花は本当

に美しく、壺はちょっと元気になった気がしましたが、ご主人様の家に着くころには、また水を半分漏らしてしまった自分を恥じて、水汲み人足に謝りました。

すると彼は言ったのです。

「道端の花に気づいたかい? 花が君の側にしか咲いていないのに気づいたかい? 私は君からこぼれ落ちる水に気づいて、君が通る側に花の種をまいたんだ。そして、君は毎日、僕たちが小川から帰る途中水をまいてくれた。この二年間、僕はご主人様の食卓に花を欠かしたことがない。君があるがままの君じゃなかったら、ご主人様はこの美しさで家を飾ることができなかったんだよ。」



私たちの子どもはひび割れ壺です。

一人ひとり、とてもユニークなひびを持っています。

私たち親の仕事は、このひびを責めることでも、そのひびを直すことでもありません。そのひびのために花の種をまくこと、それが私たち親の仕事です。

そしてもう一つ忘れてはいけないうこと。私たちもひび割れ壺だということ。世の中に完璧な親なんて一人もいません。

今日も、こんないい話聞いたのに皆さん家に帰って何やってんの、って言うんですよ。これからも私たちは、言っちゃいけないことを言うんです。やっちゃいけないことをやるんです。でも、その時お願いします。自分を責めないでください。過去にやったことも、これからやるであろうことも、決して自分を責めないで、ああ、これ言っちゃいけないんだな、やっちゃいけないんだな。これに気付くようにしましょう。気付いたら子どもに一言、「いやーね、あなたのお母さん。ホントうるさいね。ごめん。」一言お茶目に謝ってください。そしてほんのちよつと勉強してください、親がほんのちよつと賢くなれば、子どもの成長に大きな影響があるということを、是非知っていただきたいと思います。最後まで熱心に聴いて下さいまして、本当にありがとうございます。

終

実践紹介 1 海津市立下多度小学校

- ポイント** ○「体験活動＋講話＋在宅取組」の組み合わせで充実した学級に
○学級交流会での交流をもとに在宅取組実施へ発展

下多度小学校では、6月30日、夏休み前に行われた授業参観の機会をとらえ、家庭教育学級を開催しました。講話だけでなく、体験や実習といった多様な学びの場を用意し、学級懇談会で話し合ったことをもとに、夏休みの在宅取組型の活動へとつなげました。

第4学年の保護者を対象に家庭教育学級を実施しましたが、救急法講習等は全保護者を対象に実施し、学びの場の拡大を図っています。

家庭教育応援団！ 家庭教育学級取材記

給食

親子一緒に給食の試食。ちょっと緊張。



性教育と生活習慣

養護教諭による講話を聞きました。



緊急時の対応

救命法の実習を行いました。



夏休みの過ごし方

学級懇談会
テーマ「わが家の夏休みの過ごし方」



夏休み中の在宅取組
「一家庭一ボランティア」の実践

実践紹介 2 岐阜市立岩野田中学校

- ポイント** ○子育てサロンでしかできない触れ合いの場をつくる

7月15日、岩野田中学校で行われた第2回家庭教育学級は、校長先生の講話の後に、講話に基づいた子育てサロンを開催しました。学級生同士はもちろん、普段は話す機会が少ない校長先生ともたくさん話せる貴重な機会となりました。

① 講話 「この2年間で実現したいこと」

校長先生の学校改善への意気込みが伝わってきました。

② 気分転換 「親しい友達にならしましょう!」

アイスブレイク(ミニゲーム)で一気に和やかな雰囲気。

③ 子育てサロン 「校長先生も参加の座談会」

家庭内での子供の様子について交流し、会話も弾みました。



携帯電話の約束は？
学校の便りを見せる？
盛りあがる交流

小中学校で行う家庭教育学級だけでなく、企業の中でも家庭教育に関する研修が実施されています。最近では、保護者だけでなく、これから子育てに取り組む人や、自身の子育てを終えて保護者以外の立場で子育てに関わる人等、対象を広げた研修が増えつつあります。

＜講師＞ 岐阜県西濃保健所健康増進課 本間 仁恵 管理栄養士
＜演題＞ 「おいしく食べて健康づくり
～家族そろって おいしく 楽しく 食べましょう！～」

講話

- ①早ね早起き朝ご飯
- ②毎日の生活の中で子供の気づきを大切にし、できることからやってみましょう。
- ③主食・主菜・副菜をそろえて食べましょう。
- ④おやつも上手に食べましょう。

・ワークシートを使った食生活の振り返り

- ・参加者同士が朝食の内容について交流

- ・参加者同士の子育てに関する悩みや情報の交流
(子育てサロン)



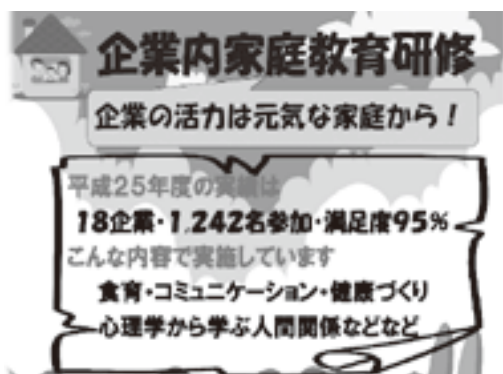
お気軽にご相談ください！
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定まで
ご相談に応じます

岐阜教育事務所	☎058-278-3059	(直通)
西濃教育事務所	☎058-473-1111	(41)
美濃教育事務所	☎0575-340111	(437)
可茂教育事務所	☎0574-253111	(440)
東濃教育事務所	☎0573-261111	(369)
飛騨教育事務所	☎0577-331111	(424)

○家庭教育について学ぶ様々な場
企業が行う家庭教育研修は、年々増加傾向にあります。職場で行う研修には、「仕事をしながらでも学ぶことができる」、「子育てに参加が少ない父親も学びやすい」、「保護者以外の人にも家庭教育について理解を深められる」といったメリットがあります。

岐阜県教育委員会では、企業内家庭教育研修に無料で講師を派遣しています。これからも企業と連携して、様々な家庭教育の場を工夫していきたいと考えています。

編集後記



県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！
ぜひご覧ください！！

—掲載内容—

- ・平成23～25年度家庭教育学級の実践
- ・家庭教育学級マニュアル ◎家庭教育プログラム(乳幼児期編)

岐阜県 家庭教育学級

檢 索



1 学校の特徴

○元気な病弱教育

本校は、筋疾患、心肺疾患、精神神経疾患、重症心身障がい、その他の難病の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする児童生徒、また身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする児童生徒が学ぶ、「元気な病弱教育」をすすめる特別支援学校です。

○教育目標

児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動を推進し、こころ豊かにたくましく主体的に生きる力を育成する。

○本校の特色

①医療と連携を図り、命を大切に
した安心・安全な教育

医療との連携、医療的ケアの実施、児童生徒の体調を考慮した教育を推進しています。

②一人一人が主役の個性豊かな教育

小学部・中学部・高等部の課程があり、各学部には通常の学級と重複障がい学級を設置、また訪問教育を実施しています。「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」に基づき、児童生徒一人一人のニーズに

応じたきめ細やかな教育活動を行っています。

③自己肯定感を高め、社会とかわる力を育成する教育

人権感覚を高め、自分や仲間を大切にし、人とかかわる力をはぐくむ支援をしています。また、創作活動や表現活動により児童生徒の自己肯定感や自己有用感を育成し、豊かで生きがいのある生活を支援しています。



▲児童生徒の達成感や自己肯定感を生み出す「ながらドリームアート展」
(写真はH25 9回目)

④自立と社会参加を目指すキャリア教育

児童生徒の年齢、発達段階、生活状況に応じた継続的・発展的な支援をしながら、一人一人の将来を見通し、キャリア発達課題に応じた学習活動を推進しています。病気や障がいによる困難を主体的に改善する力や、自ら学び考える力を育成しています。

○病弱教育支援センター

体と心のケアを必要とする幼児児童生徒の学習や生活に関する保護者の相談に応じています。また、特別支援学校・幼稚園・小中学校・高等学校への外部支援活動を推進しています。

2 各学部の重点目標

○小学部

二人一人に応じた基礎的・基本的な学力や表現力を育成する」

○中学部

「仲間とともに生活体験を広げ、周囲と主体的にかかわる力を育成し、コミュニケーション能力や表現力を高める」



▲訪問教育(病棟への訪問)



▲タブレット端末を使った授業(音楽)

○高等部

「将来を見据えた、社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付け、主体的に取り組む能力を養う」



▲総合的な学習の時間(キャリア学習)

3 PTA活動の紹介

本校PTAは、「地域に発信するPTA活動」をモットーに活動しています。

①児童生徒・職員・保護者・地域の方・学生ボランティア等とのふれあいを通して、豊かな心をはぐくむことを目的に、学校行事(PTAと共催)「ふれあいの日」を開催しています。そのバザー収益で児童生徒の教育活動(夏休み全校登校日の「芸術鑑賞会」の費用)を支援しています。

②学校創立以来、長良地区の中学校五校のPTA等に参加して

いたでいて、「地域交流活動」(説明会、地域交流講座四回、反省会、ふれあいの日、日常の授業支援)を一年間通して実施しています。

◀「地域交流講座」
車いす体験



◀「ふれあいの日」
PTAバザー



「夏祭り」▶
肝試し



「ふれあいの日」▶
焼きそば作り



お父さんたちも
頑張っています!

4 PTA会長の声

③学校休業日等における児童生徒のQOL向上・推進を図るために、「夏祭り」と「クリスマス会」の他に、「イチゴ狩り」「ボウリング大会」「サイエンス教室」から二つを選んで計画・実施しています。

④『おやじの会』のお父さんたちが、「ふれあいの日」の焼きそば作り、「夏祭り」の肝試し・花火に協力しています。

⑤PTA情報交換紙「しゃべりっちながら」を発行しています。創刊以来九年余、多くの会員に読まれています。(二〇八号まで発行済み)

とても多くの方の支えを受けて長良特別支援学校は成り立っています。

近隣の学校のPTAの方々、一般、学生ボランティアの方々には「ふれあいの日」等を通じて多くのご協力をいただき、その方々とかかわること、毎回子どもたちには、よい経験をさせていただいています。

また、根気よく温かく向き合ってくださる先生方に支えられることで安心感を得、どの子も成長していくように思えます。先生方の子どもたちへのかかわりは保護者も授業に参加できる「体験授業」等で知ることができ、優しく触れ、

目を見て語りかけてくれる先生を感じたり、童心に返ってトランポリンで一緒に飛び跳ねることで安全面に気を配りながら活動させてくれている授業の内容を理解したり、時にはパソコンを使って反射神経を鍛える課題に苦戦し(笑)、子どもたちが楽しくスキルを伸ばす授業を体験してみたり…。

親同士の繋がりは、PTA活動や、学校行事の合間に開放していただいている図書室でのおしゃべりの場、学年を超えて同じ悩みの者同士情報交換の出来る「PTフォーラム」等で深まります。

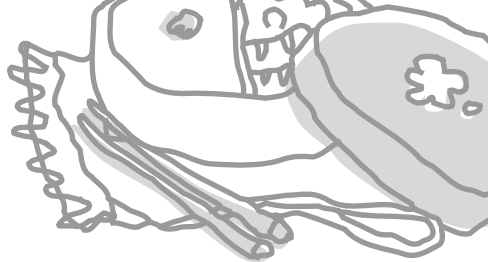
そして「先輩の話を聞く会」で、卒業生やその保護者の話を聞くことが、卒業してからの見通しを立てることに役立っています。

数多くの経験をしながら、子どもたちはひたむきさと力強さを、私たち保護者はどんな時でも曇らない明るさや、受け止めて進む力を育てていると感じます。



▲シンボルマーク
創立30周年を記念して、当時の生徒のデザインをもとに作成しました。

お弁当の日



恵那市立武並小学校PTA

弁当作りを通して子どもの自立を応援しよう！

●『弁当の日』の感動とは

今、全国のPTA活動で『弁当の日』は一大ブームを巻き起こしています。本校も取り組み四年目となりますが、実際に取り組んでみると、本当に多くの感動や驚きがあります。

そのうちの「感動」とは、保護者から寄せられたエピソードであったり、子どもたちが一生懸命作ってくる弁当そのものであったり、また、弁当を手にした子どもたちの輝く笑顔であつたりします。

本校の『弁当の日』では、「弁当だけの写真は撮らない。必ず、子どもと弁当と一緒に撮る」ことが決め事になっています。『弁当の日』の写真は、弁当が主役ではなく、それを作りきった子どもの笑顔が主役なのです。それは、この『弁当の日』が「調理の腕前を競うものではない」ことを忘れないための、「構え」でもあります。

●小学校版『弁当の日』のもう一つの意義

また、本校の『弁当の日』のねらいを逸れないためのもう一つの「構え」に、「無理せず、できる範囲で」があります。弁当作りはあくまで「入り口」。そこから、作ることへの関心を広げていくことがねらいだからです。

ところが、いざ始めると、子どもたちの奮闘は私たちの想像を超えました。「こげこげ弁当」などはまず見られません。それだけではなく、弟や妹の分も作る児童も珍しくなくなってきました。そうやってお兄ちゃん、お姉ちゃんに作ってもらった低学年は、「ぼくも!」「わたしも!」と、台所に進出します。

さらに、一年に二度の『弁当の日』だけでなく、宿泊研修や社会見学等にも、自分で作った弁当を持参する児童が増えていけるのには驚かされます。(もちろん食材の買い出しや準備、片づけには家庭の協力が欠かせないでしょうが)

「無理せずできる範囲でいいよ」と言っても、子どもたち自身が自ら求めて活動の範囲をどんどん広げていきます。それは、「食」が人間にとっての「生きる喜び」であることと共に、「お母さんの真似して、自分で何でもやってみたい!」という子ども時代の素朴な積極性の最後の数年間なのでしょう。小学校時代に、「その気になれば自分で食べるものくらい自分で作れるんだ」という思いを味わっておくことは、将来につながる貴重な体験になるでしょう。

できた!の輝く笑顔



自分の手作りおにぎりでお昼ご飯

「ぼくがやります・わたしがやります」と行動する子に

●PTA総会におけるプレゼン発表

『弁当の日』を開始するに当たって、自分の作った弁当と一緒に写る児童の生き生きとした写真や感想、保護者の思いに取り組みの趣旨を織り交ぜたプレゼンテーションを作成して、四月のPTA総会で視聴しました。保護者は熱心にスクリーンに見入り、「感動した」「弁当の日」をどうしてやるのかよく分かった」等の意見をいただきました。

●PTA研修委員会の取り組み

『弁当の日』の主役は言うまでもなく児童です。そして児童の挑戦を一番近くで見守り、支えるのは家庭です。武並小の『弁当の日』の活動が長く継続されていくためには、家庭との連携が何よりも重要だと考え、PTAの活動の中に『弁当の日』に関する活動を位置付けています。

●夏休み『弁当の日』に向けてチャレンジ

第一回目の『弁当の日』である十一月第一週の授業参観日を目指し、PTA研修委員会の呼びかけで、夏休みに児童による昼食作りを行いました。一人一人の興味・関心や技能、家庭の状況に応じて取り組む内容を考えていただくために、プリントを作成して夏休み前に配布しました。「昼食づくり」に関わってできる仕事内容を具体的に出し合い、それを一覧にして載せました。

さらに、研修委員会主催の「弁当の日に向けてチャレンジ親子料理教室」を行いました。

えてもらいながら、親子で包丁やコンロを使って調理を楽しみました。これらは「できることから始めよう」という、『弁当の日』へ向けてのスタートプログラムの役割を果たしています。

●『弁当の日』エピソード集

『弁当の日』当日、学校では、誇らしげに弁当を広げる子もいれば、照れくさそうに出す子もいます。その弁当ができあがるまでにはそれぞれの家庭で様々なドラマがあったことを、「こんなことがあったんやね。」「この子、すっかりしとるんやねえ。」と、保護者エピソードによって知ることができます。校内に掲示したり、パワーポイントにまとめたりして家庭や子どもと学校の交流を図っています。

弁当の日 in 武並

これからも「できた!」の輝く笑顔と自信を求めて、「気負わず、無理せず、できる範囲で」学校と家庭で手を取り合って進めていきます。



「エピソード校内掲示」



わが家の弁当の日



弁当の日が近づくと、「ぼくそぼろ弁当にする。」といった息子。
 「いいね！！なんでそぼろにしようと思ったの？」と聞くと、
 ち、忙しい日はそぼろ作ってくれるから、早くで簡単
 との返事。なるほど・・・日頃よく見ているなと実感。
 弁当の日のおかげで、普段の親の姿をよく知っているなと感じました。
 しから全部一人の力で行うには、こんなに努力が必要なことも
 と思うので、できあがった時には、
 おかあさん大変なやんな。
 かった。ありがとう。」と言ってくれました。
 画がなかったら、聞けなかったひとことです。
 日」ぜひこれからも続けていただきたい
 ます。



わが家の弁当の日



1 回目の「弁当の日」の前に家庭科で料理をさせてもらい、自分で作る日にはこんなものやあんなものを作ろうとちよっとずつ考えていたようでした。前日に買い物に行き、当日5時ごろ起き登校に間に合うように仕上げることができました。学校では、友達の作ったお弁当を見せ合ったりした、楽しい時間を過ごせたようです。

お弁当に入れるおかずを考えたし作るのを楽しみにしたりしていましたが、朝早く起きて眠いのを我慢して料理を1人で作るなんて、面倒くさがったり起きられないんじゃないかと思っていました。けど、きちんと最後まで作ることができました。何でも決めつけずに、最後までやらせる事で大切なこと今回のことでわかりました。休みの日の朝食等も時々作るようになり、きっかけを作っていたいた学校に感謝しています。



保健室ノート

●下呂市立下原小学校養護助教諭
成美 愛子

笑顔あふれる食育指導

くわくわく学べる毎朝一問く

「先生、食べられなかったので残します。」

子どもが配膳室に持ってきたトレイには、山盛りの野菜が。他にも、ほとんど牛乳を飲まずに残す子、時間に間に合わずに残す子など、給食を残しに持って来る子はほぼ毎日います。

給食は、栄養教諭の先生が栄養バランスを考えて献立を作り、調理員さんが心を込めて作る、とてもありがたいものです。だからこそ、何とか残さず食べてほしいと強く思いました。

まず全校児童を対象に、嫌いな食べ物について質問してみました。すると、野菜や豆、きのこ類に集中しました。子どもたちは、大豆が味噌や豆腐などに使われていること、野菜は栄養がたくさんあることは知っているものの、具体的にどんな栄養があつて、どのように作られているのかを知らない子が多いことが分かりました。そこで、給食に使われている食材一つ一つについて知ること、食べ物に興味をもったり、苦手なものにチャレンジしようとする気持ちになつたりしてほしいと思い、『今日の給食クイズ』を毎日一問出すことにしました。

『今日の給食クイズ』は、その日の献立から一つの食材を選び、食材の栄養が何色（赤・黄・緑）かを考えるクイズです。子どもたちは毎朝登校

すると、保健室前にある『今日の献立クイズ』で立ち止まり、クイズに答えてから教室に入るようになりました。クイズの答えは、給食の時間に食材の栄養についても加えて放送で発表します。すると、各教室から子どもたちの歓声が聞こえてきました。毎日クイズを繰り返すうちに、「家でもお母さんに教えてあげたよ。」「スーパ―へ行った時に、食材の色当てをおばあちゃんとやったよ。」などと話してくれる子が増えました。

このように、給食のことや食べ物のことを家庭で話題にするということも、大事な食育だと感じていきます。そして何より、この取組を始めてから給食を残す子が少なくなってきたことが、とても嬉しいです。

「親子クッキングで

楽しく食育」

本校では、日頃食事や給食を作ってくださる方への感謝の気持ちをもってもらいたい、子どもたちが今後大人になっていく上で、『生きる力』を養ってほしいという願いのもと、長年「おにぎり・お弁当の日」を続けています。今年度は、それに加えて、夏休みに「親子クッキング」を実施し、親子のコミュニケーションを大切にしながら、食について学ぶことにしました。

「親子クッキング」は、夏休みの期間であればいつ取り組んでもよいこと、どんな料理でもよいこと、必ず親子で取り組むことを条件として実施しました。親子で作っている様子や作った料理の写真や絵、作った後の親と子の感想を、配布した「親子クッキングチャレンジシート」にまとめ、夏休み明けに提出してもらうようにしました。提出されたシートを

見ると、親子でクッキングを楽しんでいる様子が伝わってきました。子どもの感想には、「料理の手伝いをしたらおもしろかったし、いつもよりおいしかった。」など、楽しく取り組みめたことが書いてありました。親の感想には、「休みの日など、また一緒に作ってみたいと思った。」など、料理を通して子どもと向き合う機会

ができてよかったという感想が多くありました。どの写真もみんな笑顔で楽しそうでした。

これからも家庭と学校が連携して、笑顔で楽しく学べる食育を実践していきたいと思っています。



▲今日の給食クイズ

先生の言葉

瑞穂市立穂積中学校 教頭

古田 隆洋

昭和五十一年四月、私は岐阜市内の中学校に入學しました。一年生十クラス、二年生十クラス、三年生十一クラスというとても大きな学校でした。

一年生の学級担任の先生は女性の社会科の先生でした。先生は入学式の日こんな話をされました。「今、君たちは同じスタートラインに立っています。小学校であったことなど私は何も知りませんし、知りたくありません。今日から、君たちは一斉にスタートを切るのです。これからのみなさんの頑張りを楽しみにしています。」この話を聞いたとき、体の奥底からやる気が湧いてきたことを今でも覚えています。

先生の話でもうひとつ印象に残っている話があります。外掃除で草引きやゴミ拾いを真面目にやらない私たちに対してこんな話をしてくださいました。「みんなは、手が汚れるからと言って、草引きやゴミ拾いを嫌がっているみたいだけど、手の汚れなんかは洗えばきれいに落とせるよ。手の汚れを気にしていたら掃除はできないね。」と。家でも学校でも掃除になるとこの言葉を思い出します。

二年生の学級担任の先生は男性の保健体育の先生でした。その先生は私たちのことをよく理解してくれました。失敗しても頭ごなしに叱ったりせず、話をよく聞いてから、諭すように語ってくれました。そして最後には「今度は気をつけること。」と言葉をかけてくださいました。また、私たちが頑張ったときには、すぐ褒めてくださいました。褒められるとうれしくて、何事もやる気で取り組んでいたという記憶があります。

三年生の学級担任の先生は男性の社会科の先生でした。その先生は非常に厳しく怖い先生という噂でしたが、私たちのために進路に関して親身になって考えてくださる優しい先生でした。

その優しい先生があるとき、顔を真っ赤にして怒ったときがありました。それは給食当番の仕事をさぼった二人の男子生徒に対してでした。「自分の責任を果たさないばかりか、みんなに迷惑をかけている。」と言い、一発ずつビンタを張りました。見ていた私たちはびっくりましたが、何かとても大切なことを教えられたような気がしました。

中学の三年間で忘れてはいけない先生がもう一人みえます。それは、部活動の顧問の先生です。何も知らずに剣道部に入部した私に、一つ一つ丁寧に教えてくれました。剣道の技術だけでなく、練習を続けることの大切さ、勝負の厳しさ、部活動の伝統の大切さなどたくさんのことを教えてくださいました。その熱心な先生のおかげで、上達させていただいた私は、中学を卒業しても剣道続けることを決め、高校の剣道部に入部しました。

高校の顧問の先生は、ご自身が範を示され生徒と共に稽古されるとも自分に厳しい先生でした。稽古の後には必ず先生の話がありました。印象に残っている話の一つに「克己」という言葉についての話があります。「剣道は相手と勝負しますが、本当に勝負をしなければいけない相手は自分です。自分の気持ちの中にある弱さに打ち克つことが本当に強い自分を作ります。」という話でした。「克己」という言葉は今でも自分の心に刻み自身の支えとしています。

また、教師という道に導いてくださったのもこの先生でした。大学受験に失敗し進路選択で悩んでいた私に先生はこんな言葉をかけてくださいました。「古田君は剣道や水泳などの得意種目があるんだから体育の先生をめざしたらどうだ。」と。教師になることなど全く考えていなかった私は、「先生、僕には無理です。先生のように人前で上手く話せません。教師には向いてないと思います。」と答えたところ、「話すことなんて慣ればなんとかなるよ。」と言われ、その気になった私は教師の道をめざすことになったのです。

今の私があるのは、こうした先生方のおかげです。私の先生がそうであったように、私自身も「人を育て導く」という教師の使命を全うすべく、日々、子どもたちと接してまいります。

子育て半生記

19年の言い訳

加茂郡白川町立白川北小学校PTA会長 長尾 弘巳

ビビッ、ビビッ…、携帯のアラームが鳴るのを反射的に止め、眠い目をこすりながらあたりを見渡した。気がつくとその日は小学校の体育館のステージの上だった。固いマットの上で寝ていたらしく寝違えた首が痛くて回らない、いてて。一体何でここで寝たのかすぐには思い出せない。

ステージの下を見るとドーム型のテントが三つ、体育館床の中央に並んでおり、中から子どもたちの話し声が聞こえる。あつ、そうか、昨日から小学校の体育館を借りて、スポーツの合宿をやったんだっけ。昨夜は雨が降ったので、急ぎょテントを体育館の中に張り、子ども達と一緒に泊まってたんだ、ようやく記憶が戻ってきたぞ。それにしても昨日はよく飲んだなあ。子ども達の消灯時間はたしか二十二時で、それから保護者と指導者で横の空き地でバーベキューだったな。ケイチャンが最高にうまくて缶ビール五本は飲んだと思うけど、焼酎のロックもいっぱい飲んだぞ。どうりでまだ頭がフラフラする。日付が変わったのは覚えてるけど、いつ体育館へ来て寝たのか全く記憶がない。ところで子ども達は大丈夫だったかな。お母さん方と指導者に任せちゃって申し訳ないなあ。こんなのが保護者会長を務めるなんて…、これも周

りのみなさんのお陰だなあ、感謝しなくっちゃ。さてと、もうすぐ六時半になるか。子どもたちを起こしてラジオ体操、やるとするか。おーい起きろー、朝だぞー。

毎年、こんな感じでスポーツ少年団の合宿をやっており、小説風に私の活動(ダメなところ)を紹介してみたい。今回、「わが子のあゆみの子育て半生記を書くことになったよ」って、妻に話したところ、「子育て反省記なら書けるでしょ!」って厳しい一言が返ってきました(笑)。子育ては全部妻に任せっきりで、自分は仕事で頑張るんだという勝手な理論を唱えていた私は、三人の子ども達と直接向き合うこともなく十九年の時を過ごしてきたのです。反省以外に何もありません…。

そんな私が皮肉にも白川北小のPTA会長を拝命することとなり、それに加えて町P連会長、郡P連副会長、そして県P連副会長までを一度に受けてしまったわけで、これはきつと今までの子育て放棄を深く反省し、もっと真面目に頑張りたい!という神が与えし試練ではないかと思えてなりません。まあ、受けたからには前向きにやってみようと、できない頭をフル回転してるところです。

ここでやっと自己紹介します。私は現在、生まれ

育った白川町で役場勤務二十三年目を迎えております。元々、人の役に立つような仕事に就こうと最初は医療関係（齒科技工士）の仕事をやりましたが、二十七才の時に縁あって町職員に転身しました。二十九才のときに今の妻と結婚、三十才で長女、三十二才で二女、三十七才で三女の三人の娘に恵まれました。子どもの成長と流れる月日はあつという間でですね。長女は十九才となり、私は来年一月で五十才を迎えます。

私は子育てを妻に任せっきりで、頼まれたことをとりあえず「はいはい」とやるだけの主体性のないダメ親父です。ダメ親父でもなぜか進んでやってしまうことがひとつだけあり、それは便利屋のように頼まれれば大体のことは何でもやってしまうことです。いろんな団体の庶務会計など、ちょっと頑張ればできるかなって受けていたら両手に余ることもありました。年齢とともに細かいことができなくなつて現在は片手で精一杯ですが、それでもできることはやろうと決めています。

なぜ、そんなにまで面倒なことを受けるのか、断わればいいのに何でやるのだろうか自分でも不思議でした。自分はちよつと変わった性格なんだと漠然と思つていましたが、五十才を迎える年になつてやつとわかりまし

た。単純にそれが自分の生き方なんだと気がついたのです。「頼まれごとは、試されごと」、これは家庭教育学級で学んだ一節です。頼まれごとはできるかぎり引き受けて、精一杯取り組むことで新しい自分の力となり、周囲の関係が広がります。こうして目の前のできることを一歩一歩重ねていく、そうやって現在の自分があるということです。

そんな私の生き方、後ろ姿は子ども達にはどう写っているのでしょうか。十九年間の言い訳になりますが、こういう背中をみせること、つまり、これが私の子育てだったんです。



ボランティアニュース

vol.2

出色の活躍、父協のおやじたち 子どもたちもつられて

岐阜市立島小学校PTA

島小学校には今年で十年目となる父親協力委員会(父協)があります。夜間パトロールや学校行事でのテント張り等の他、「学校に泊まろう」災害時避難所体験(秋)、「父協マラソン」親子駅伝(冬)を父協主体で企画し、PTA会員の方々のご協力を得て

取り組んでいます。

夏休み前には「トイレピカピカ大作戦」という児童・保護者・先生合わせて二百人近いイベントも企画。今年で六回目になりました。一生懸命に学校のトイレをきれいに磨き上げる子どもたちの姿が眩しく感じられます。大粒の汗をいっぱいいた子どもたちの顔は、やり遂げた喜びで輝いていました。

さて、今年度より、土曜授業の朝「父協あいさつ運動」を始めました。普段行われている子どもたちのあいさつ運動も、お父さんが加わるとさらに元気が増します。親は子に、子は親につられてあいさつの声が大きくなり、あいさつの輪が広がります。

これからも、子どもたちとより強く深いつながりが生まれる取組をしていきたいと思います。



夏休みボランティア

校舎に感謝!ピカピカボランティア

岐阜市立三里小学校PTA

いつも子どもたちが活動の舞台として利用している校舎も、老朽化や運動場からの容赦ない砂風等により、子どもたちが一生懸命に掃除をしてもなかなかきれいにならない状況です。そこで、夏休みを利用して、この舞台をきれいにすることで感謝の気持ちを、美しくすることで子どもたちへの期待を形にして、大人たちからのメッセージを贈ろうと、暑い中、夏休みボランティアに百十七名が参加していただきました。

教室は磨かれたガラス窓からのまぶしい光が差し込み、美しく感じられます。廊下を歩いても、何かうれしく

感じてしまします。トイレは、尿石がこびりついた配管にドライバーなどを使ってひとつひとつ丁寧に掃除をしていただけました。

「子どもたちがお世話になっている校舎に恩返しできればうれしい!」

「ここで勉強してもらったために、できることをやってあげないと!」

「もっとこういう機会つくって!」
何か一体感を覚え、やりきった喜びすら感じるすがすがしい夏の朝でした。



学校・家庭・地域とのかかわりや 人とのつながりを深め、活気ある 子どもを育てよう

岐阜市立三輪北小学校PTA

三輪北小学校PTAで大切にして
いるのが、「人とのつながり」です。よ
り多くの人同士のつながりが、豊かな
人間関係を育み、それが子どもの成
長を支える基盤となると考えている
からです。そこで、大きく二つの活動
を紹介します。

まず二つ目に子どもと大人をつなぐ
活動です。具体的には、あいさつ運動
と夏祭りへの出店があります。あいさ
つ運動は、学期始めや日曜参観の朝、
運動会の選手入場の時に実施しまし
た。夏祭りへの出店では、三種類のお
店を出店しました。

二つ目に大人同士をつなぐ活動で
す。昨年度立ち上げた父親有志の会
は、ブラピ会です。これは「ブラッと来
て、ピッとやる」という意味からブラ
ピ会としました。実際の活動では、
夏休み中に全面芝生のグラウンドの散
水をしたり、いも祭りの焼き芋で使
用する薪を集めたりしています。



PTAが地域を巻き込み行う 「夏☆チャレンジ2014」

岐阜市立柳津小学校PTA

PTAとして夏休みに子どもたち
に何かに挑戦できる機会を創りたい
という願いのもと、昨年から始められ
た「夏☆チャレンジ」を七月二十六日
(土)に開催しました。参加者は、前年
より多い児童二百五十名、保護者百
四十名、ボランティア百名でした。

参加者は親子でバリアゴルフ、紙飛
行機飛ばし大会、描こうTシャツア
ート、かざぐるま作りに挑戦の、各活動
に参加して歓声をあげていました。ま
た、かき氷やフランクフルトを味わっ
たり、先生方によるステージイベント、
ゆるきやらも五体参加いただき、大変
暑い日でしたが思い出に残る時を過
ごしました。

運営にあたっては、先生方、柳津町
商工会並びに青年部、日赤奉仕団、
岐阜聖徳学園大学カップの会・遊サイ
エンスの学生ボランティア、保護者ボ
ランティア・境川中学校から二十名の
生徒さんの協力をいただきました。ま
た、地域住民の方、岐阜市役所、警察
署、消防署、地域企業・NPOの方々

からも各種ご協力いただきました。
本当にありがとうございました。





何気なく、タイトルの言葉にひかれて、手に取った本でした。著者は、歌人の斎藤茂吉さんの長男で、同じ精神科医の斎藤茂太さんです。

前書きに、「人生、楽しくなければ生きる意味がない。これが私の持論である。私流の「人生の成功」とは、どれだけ楽しく生きたか、どれだけ楽しく仕事をしたかにかかっている。」

著者は、いい言葉、気に入った言葉をメモされ、その中から言葉を紹介しながら、人生の生きるコツを伝授するという本です。ここで、いくつかご紹介します。

笑うことは、最も簡単な成功法。楽しい人生を過ごすには、やはり「笑い」は欠かせないことのようにです。著者自身もコン

チクショーと思うような時も、無理にでもニコニコと笑うように心がけているうちにニコニコ顔が定着するようになり、心まで、笑ってくるようになったとおっしゃっています。

『表面をつくるということは、内部を改良する一種の方法であ

る。夏目漱石』

『ほめ言葉をもらえば、それだけで二ヶ月間、幸せに生きられる。マーク・トゥエーン』

『人はみな素晴らしい。たった一度会っただけなのに、二度と忘れられない人は大勢いる。シンディ・ローパー』

『過ち改めざる、これを過ちという。孔子』

『信頼してこそ、人は尽くしてくれるものだ。武田信玄』

『失敗したところでやめてしまいうから失敗になる。成功するところまで続ければ、それは、成功になる。松下幸之助』

：など多数。

仕事や子育てで、いろいろ悩んだりする事があると、思わずこの本を読み返しています。多くの賢人たちの知恵ともいうべき言葉が、その時の心の状態で違っ心に響きます。本当に語りが、とても優しく温かいので、肩が軽くなって元気が出てくる、何度でも読み返してみたいくなる本の一冊です。

一夢庵風流記

隆慶二郎 著 集英社文庫

羽島郡岐南町立岐南中学校PTA
会長 柘植靖貴



戦国ゲームや歴女ブームでおなじみとなった武將、通称「前田慶次」こと「前田慶次郎利益（とします）」。「慶次を世に出した作品といえば少年ジャンプに連載された「花の慶次」なのですが、本作品はその原作となった小説です。この夏「宝塚歌劇団 雪組」の舞台でもこの作



いい言葉は、
いい人生をつくる
斎藤 茂太 著 成美文庫

養老郡養老町広幡小学校PTA会長

伊藤 賢治

品が演じられています。

慶次に関する資料は少なく、物語は史実通りなのかどうかはわかりませんが、作品で描かれる慶次の生き様には心を躍らされます。慶次は前田利家の兄、利久の養子として滝川家から前田家にやってきました。信長の命により前田家の家督は病弱な利久から利家が継ぐことになりましたが、利久の死後、窮屈な前田家を出奔し戦国の世に飛び出して行きます。

傾奇者（かぶきもの）として名を馳せた慶次、その傾奇ぶりは秀吉も認めるほどなのですが、私が慶次に惹かれる理由はその豪快さだけではありません。武

の達人でありながら和歌や俳句を嗜む教養人としての部分や、直江兼続を始めとした盟友たちとの交流で描かれる義に厚い人柄も魅力の一つだと思います。

私の好きな場面は作品の終盤です。秀吉亡き後、天下を目前にした家康の策略にはまり、武門上杉の威信をかけて家康と対峙した上杉家。慶次は盟友兼続のために敗北を承知で上杉家に味方し、長谷堂の戦いでは獅子奮迅の活躍をします。関ヶ原の戦いで西軍が敗れ家康の敵は上杉のみとなっていました。主君上杉景勝と兼続を死なせてしまったかと、慶次は破天荒な方法で上杉と徳川との和平交渉を成

功させます。和睦の結果、上杉家は会津百二十万石から米沢三十万石にまで減封されてしまいます。慶次を迎え入れる余裕などないはずの上杉家ですが、米沢に旅立つ兼続が慶次を迎えにやってきました。この場面、言葉は少なくとも二人のやりとりには何度読み返しても心が震えます。

真の友情とは、漢（おとこ）とは……この作品に教えてもらったような気がします。

pleasure イラスト&クイズ



PN. のた (岐阜市)



高野志映 (羽島市)

QUESTION -1

使うときは使わなくて、
使わない時に使うもの
はなあに？



出題・三宅 花 (美濃加茂市)

〈答えは41ページ〉



わが家のルール

50

瑞浪市立陶小学校PTA会長 東川 真澄

東川家の巻

心が和み、笑顔になれる『習慣』

わが家は、私達夫婦と小六の長男、小三の長女、夫の母の五人家族です。家族の関わりを大切に考えるわが家のルールを紹介します。

ルール① 朝の目覚ましお手伝い

これは、二年以上続けているものです。起床するとすぐに一人は、私と朝食の準備。もう一人は、祖母と洗濯物たたみ。これを日替わりで交互にやります。忙しい時に子どもと一緒にやってくれるので心も和み、子どももスッキリと目が覚め、朝食から登校までがとても早くなりました。また、手作りのおかげで家族に喜んでもらおうと、はりきってくれます。「おいしいね。」と、笑顔で会話も弾みます。

ルール② 家族で一緒にスポーツ

夫がスポーツ好きなので、サーフィン、空手、マラソンなど、いつも家族でスポーツをします。スポーツを通してのスキンシップや信頼関係は大切だと思います。わが家の『ルール』は、心が和み、笑顔になれる『習慣』でありたいと思っています。



わが家のルール

51

下呂市立金山中学校PTA副会長 河尻 茂美

河尻家の巻

思いやりの心で

わが家は、私達夫婦とひとり娘（中三）、そして主人の父、母の五人家族です。思春期の娘とのやりとりで四苦八苦しながらの毎日ですが、そんな家族のルールを紹介します。

ルール① 家族のイベントは皆で盛り上げる！

お誕生日会はもちろん、お正月、クリスマス、いろんなイベントがある中、我が家ではお誕生日会を大事にしています。皆で揃って楽しく食事をし、ケーキを食べるときには、必ず「ハッピーバースデー」を歌います。

ルール② お風呂はコミュニケーションの場

これは私と娘との関係ですが、毎日一緒にお風呂に入ります。お風呂の中では、学校のこと、友達のこと、部活のこと、時には悩みを相談されたり…。とても会話がはずみます。むずかしい年頃ですが、少しでも会話をすることによって、人や家族を思いやる心をこれからも大切に思っていきたいです。





三井住友海上の安心

GK



子の思い

大好きな八百津祭り

加茂郡八百津町立八百津小学校

三年 わたなべたかひと

ぼくの住んでいる八百津町には、三百年前から続く八百津祭りがあります。祭りの一番の目玉は、三台のだんじりが一つの大きな船をつくることです。

ぼくは、二年生の時にだんじりにのっておはやしをする「桐若」にえらばれ、つづみを打ちました。二月から練習が始まり、四月の本番を迎えるまでたくさん練習では、つづみの持ち方や打ち方など教えてもらっただけでなく、礼ぎやマナー、しせいについてもたくさん教えてもらいました。

「神べるま」という一回五分以上の曲を三回連続でえんそつした時は、つづみを打つ手のかわがやぶれて、とてもいたかったです。それでも二日間行われたお祭りは、

とても楽しかったです。

ぼくは、八百津祭りが大好きなので、また「桐若」にえらばれて、だんじりにのれるとうれしいです。

立野御殿万歳クラブ

海津市立東江小学校

六年 森万祐子

「オレワイヤー ハレオ蔵や 太夫様が…中略…さくまでも万歳左が三十と三ヶ国なら」

これは、立野御殿万歳のせりふの一部です。立野御殿万歳は、扇を持っておどったり、鼓をたたいたりして、せりふを言う芸能です。

私は四年生から三年間、立野御殿万歳クラブに所属しています。入ろうと思った理由は、自分の住んでいる海津市の立野地区に古くから伝わるものだからです。

四、五年生の時、せりふが分からないと、いつも六年生が教えてくれました。そんな六年生のおかげで、自信をもってせりふを言える

ようになりました。

六年生になったら、立野御殿万歳クラブのクラブ長になりました。初めは、みんなをしつかり引っ張っていきけるのか不安でした。でも、六年生の四人の仲間たちが、四、五年生が分からなくてこまっていると、進んで教えていたので安心しました。

そして今年の八月八日の夜、私たちは名古屋城宵祭りのステージで万歳をひろうしました。雨の降る中でしたが、多くの人が見に来ていたのでとても緊張しました。本番では、今までで一番大きな声でせりふを言うことができました。

二期期のほのぼの祭りでは、三年間のまとめとして、最高の演舞をしたいです。講師の方や先生もたくさん教えてくれるので、感謝の気持ちを忘れず、がんばります。

毎日の家庭生活で、私が大切にしていること

羽島市立竹鼻中学校

三年 加藤花梨

私の毎日は、仲間、先生、家族に支えられて成り立っています。学校での過ごし方と家庭での過ごし方にはそれぞれ違いがあります。しかし、必ず誰かに支えられていることは同じです。

学校では、仲間と協力することや先生に支えてもらいながら過ごしています。私は生徒会の仕事を積極的に言い、大変だけど、充実した毎日を過ごしています。これは全て、誰かに支えられているからできたことで、私一人では何もできなかったことだと思います。なので、クラスの仲間や、先生方に感謝を忘れないように生活しています。

家庭では、手伝いをするのが私の毎日で。私の家では、両親がいつも仕事で忙しいため、朝早くから夕方まで家にはいません。

天高く馬肥ゆる秋



QUESTION -2

10メートル先には、
誰の家がある？



出題・大山里香子（瑞浪市）
〈答えは41ページ〉

私は四人兄弟なので、私が朝ごはんを作ったり、お風呂を入れたりしています。

休日には、私も仕事を手伝いに行くことがあります。父の仕事は建設業で、楽なものではありません。

しかし、仕事を手伝うことで、終わった後に「がんばったね。」や「ありがとう。」と言ってくれます。私はその一言がとてもうれしくて、つかれを感じないほどでした。それが私の毎日です。

両親が仕事をするのは、自分達のためではなく、私達のためなんだと思います。好きな物を買ってもらえたり、ごはんが食べられた

りするのも、全て両親のおかげです。なので、せめて家では苦勞しないようにたくさん手伝いをして、少しでも両親が休めるようにしています。まだまだ先のことを考えると、支えてもらうことがたくさんあると思います。なので、日ごろから感謝の気持ちを忘れないようにしています。

学校と家庭とで毎日の過ごし方は違いますが、自分一人だけで生きていくことは不可能です。いつも誰かに支えられて、毎日があるのだと思います。これから、支えられていることに感謝しながら毎日を元気に生活していきます。

親の願い

愛情と無関心

美濃市立大矢田小学校PTA

会長 別府徹也

過日、家族で外食に出かけた際の光景について、「他人の親の願い」で一言綴ってみました。

多くの家族連れで賑わう店内。周りに迷惑をかけないようわが子に注意をしつつ見渡していると、とても気になる家族の光景がありました。家族構成は、父親、母親、小学生世代と思われる子ども三人の五人家族。料理が出てくるのを

待っている様子でしたが、五人全員が小さな画面とにらめっこ、しかも無言で。ついつい気になってしまい、トイレに立った際、その子どもたちの画面をチラ見すると、学習ソフトではなくゲームでした。

ゲームがいけないとは思いませんが、ここまで来てすることでしょうか？両親ともスマホに夢中で、子ども一人が両親に声をかけているにもかかわらず二人は無反応。結局、その子はまた画面と無言で会話を始めました。

親のスマホなど携帯端末に夢中になっている姿（背中）をみて、子どもたちは何を思っているのでしょうか？

もうすぐ料理が出てくるかなと聞きたかったのかもしれないませんが、あるいは何か重要なことを話そうとしていたのかもしれない。大袈裟な言い方かもしれませんが、親の無関心が、家族の会話が成り立つきっかけの芽を摘んでしまったのではないのでしょうか？

子どもたちの携帯端末の使用について何らかの規制をかける機運が高まって来ており、つつい子どもたちばかりに目が向いているように見受けられますが、われわれ親も携帯端末の使用について、改めて襟を正すことを忘れてはいないと思います。携帯端末に子育てではできません。家族の会話があつての子育てであると思っています。便利な機器（ハード）の発達の中で、家族の絆である会話（ソフト）が蔑ろにされてはいけないのです。

われわれ親も自分の親の背中（姿勢）を見て、ここまで大きくなってきたことを忘れず、子ども

たちのことを常に考えつつ、親としての背中（姿勢）を見せていきたいものです。

子どもを育てるということ

飛騨市立山之村小中学校PTA

会長 上家雄仁

山之村小中学校は、我々親だけではなく地域全体の方々の協力があつて成り立っています。今年度PTA会長をやらせていただく中で、何回か他校のPTA役員の方々と交流する機会をいただきました。そこに集まった皆さんの多くから、学校と地域との連携の必要性をお聞きます。その度に、今現在、私の学校がこの地域の中心となつて存在しているということに、先輩方の努力に対して感謝の気持ちでいっぱいになります。

山之村の地域では、何十年前前から学校の存続に対して、地域全体で真剣に考え努力してこられたことを、子どもの頃から聞いてき

ました。それが、自分の子どもを学校に出していない家庭からもPTA会員として会費を頂けることや、年間の行事に対して大勢の方に参加していただけることにつながっていると思います。

子どもを育てるということを改めて考えてみました。今の時代、兄弟の数はせいぜい二〜三人。一人っ子の家庭もたくさんあると聞いています。理由はそれぞれだといえます。そうになると、一生のうちに親として経験できる時間はせいぜい二十年程度。わけも分からず頑張つて、あつという間に終わってしまう時間だと思います。きつと後になって、ああすれば良かった、こうすれば良かったという思いを持つのではないかと思います。その間に大切な思いや経験を、学校を中心として今の子どもたちや親にアドバイスを頂く。血のつながりではなく地域に暮らす若い家族と経験豊かな方々とつながっていくことが、子育ての不安や悩み

を減らすことになり、犯罪から子どもを守ることに自然な形でつながっていくと思います。

大人は子どもの手本でなくてはならないと思います。大人の社会でのイジメや差別。争い事が無くなりみんなが仲良くできれば、当然子どもたちは何の迷いもなく、素直にまっすぐ育っていけるものと信じて、日々子どもたちと接しています。人の悪口、陰口を言わない。なかなか難しいことだと思います。でも、近くにいます子どもにそれらを聞かれてしまつことが、イジメや差別の種を子どもたちの心に植えてしまつと思い、気を付けています。

子どもが元気なら、親も地域も元気になれる気がします。山之村の地に子どもがいなくなることがないよう、皆さんにも協力していただきながらやっていきたいと思っています。

ご飯が美味しい季節です！



逆さ言葉

ままがわたしにした
わがまま
(ママが私にした我がまま)

出題・河田健太(岐阜市)

教育の窓

「三位一体」を目指して

中津川市立福岡小学校

教頭 青山 智彦

「目が輝いている。笑顔が弾けている。」

今年度久しぶりに小学校勤務になって、子どもたちの姿から感じたことです。この子たちのよさを大切にしつつ、まっすぐに育てていかなくてはならないと、改めて感じているところです。

子どもたちの健全育成には、家庭、地域、学校が三位一体となる

ことが大切であるとよく言われます。では、三位一体とはどういう姿のことをいうのでしょうか。

本校では、PTA行事や授業参観には、ほぼ全員の保護者が参加されます。不明な点や心配なことがあれば、学校に連絡していただけます。危険箇所調査などのお願いや、子どもたちの学習課題等の見届けにも協力いただけます。双方に、伝えるべきことは伝え、応えることには誠意をもって応えることが、お互いの信頼につながり、家庭・学校間の関係づくりの土台となると思います。

見守り隊として地域ボランティアの方々に立っていただいています。地域のお祭りには、多くの子どもたちが参加します。その中の「手踊り」の練習には、昼休みに地域の方の進行により、子どもたちが踊りを覚えていきます。また、時々には、地域での子どもの様子について、学校に情報を寄せていただける方もみえます。総合的な学習の時間には、米作り、地域探検等で、地域の方々に力添えをいただいています。

だからこそ、「目が輝いている。笑顔が弾けている。」と感じることができるのだと思います。本校においては、三位一体を目指すための基礎はできているのではないかと考えています。



ことは何かを考えました。本当の

意味での三位一体の姿とは、それが目指す方向を同じにして取り組むことであると考えます。願う子どもの姿を共有し、大切にすることを共通理解し、取組内容を一にすれば、自ずと協力体制が整い、それが三位一体の姿につながると考えます。

本校では、昨年度の課題を受けて、いつでも、どこでも自分からあいさつをすることに力を入れています。また新たに、投げかけや働きかけに対する「はい」と返事をするに取り組み始めました。あいさつや返事は他人とのコミュニケーションには欠かせないものです。コミュニケーション能力は、社会で求められる力のひとつであると言われます。

岐阜県が目指す『地域社会人』への一步として、あいさつ・返事の取組を家庭や地域にも広げ、三位一体の教育を推進していきたいと考えています。

挨拶の輪を広げましょう

各務原市立蘇原中学校

主幹教諭 水谷 武志

「先生おはよう。元気やった?」と満面の笑みで明るい声が響いた。温かい心のエネルギーをたくさんもらいうれしくなる。ニコツとして目を合わせ挨拶を返してくれる子。その表情は輝いて見える。これもうれしい。あんなに素敵な挨拶をどうやって身に付けたのかな。あれはもう彼女の財産だなあ。校庭や周辺道路のゴミを拾いながら、子ども達に挨拶をする朝の日課が始まりました。

下を向き小さな声で挨拶する子や振り向いてニヤツと表情を変える子、こちらの存在を認識してくれているようです。

全く無視してすれ違う子もいます。面倒なのかな。恥ずかしいのかな。朝から嫌なことがあったのかな。健康状態は大丈夫かな。ほんの一言でも、すれ違うその一瞬

で多くの情報を得ることができる挨拶。挨拶に含まれる意味は計り知れないものがあります。

子ども達も色々な思いがあり、日々気分や体調は違うでしょうが、何であれ挨拶ができる人になってほしいと願っています。

人は悪くないのに挨拶が下手だと誤解される。人間関係が上手くない人の多くは挨拶が満足に出来ない人。「挨拶しないのは、私の性格だから分かってください。」は職場でも地域でも通用しません。夢を叶えるため、次のステージへ進む子ども達だからこそ挨拶を身に付けてほしいのですが、注意しても無理矢理言わせても身に付くものではありません。

心を込めて挨拶をするには心のパワーや努力が必要です。まず、形としても挨拶を素早くできるようにしたいです。とにかく人と会ったら反射的に迷わず挨拶。続けるうちにタイミングよく挨拶ができ、気持ちを伝えられるように

なります。多くの子ども達が生活する小中学校は心を込めた挨拶を定着させる最適な場です。この小中学校でも挨拶を大切にしています。けれど残念ながら小中学校の取組だけでは挨拶の習慣が十分に身に付きません。

家庭での「おはようございます」「いただきます」「ごちそうさま」「行ってきます」「行ってらっしゃい」その続きに地域や学校での挨拶へとつながる挨拶の連続性こそ「心を込めた自然な挨拶ができる子」を育てることになるのです。家庭の力が不可欠です。

挨拶の習慣を大切にする家庭で育てられた子どもは自然に挨拶ができるようになります。また、挨拶には家族の絆をより一層深める力もあります。御家庭でもぜひ挨拶について振り返ってみてください。また、PTAでも話題にしたいだきたいと思います。

挨拶の輪を広げ、共に明るい社会を築いていきましょう。

9月号クイズ答え

Q1

- A: ひばり結び
B: 本結び
C: もやい結び

Q2

- 1: 分
2: 体

9月号のクイズ当選者

有馬 佑美(岐阜市) 大角沙矢香(大垣市)
河田 里菜(岐阜市) 加藤 大亮(揖斐郡)
南 亜美(羽島市) 三宅 花(美濃加茂市)
木村 龍一(各務原市) 長瀬 良磨(美濃加茂市)
中森 悠仁(瑞穂市) 安田 恵輔(多治見市)
伊藤 慎介(山県市) 廣瀬 茉莉(本巣市)
金谷 夏芽(大垣市)

応募方法

応募者は、はがきで、11月末までに下記の宛先へお送りください。

(1人1枚・当日消印有効)

※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824

岐阜市北ハツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●11月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』への感想・意見

●「なぞなぞ」の問題と答え

●逆さ言葉

下の漢字の中で同じ「部首」のグループを2つ作ってください。あまった漢字を組み合わせると、どんな熟語ができるでしょうか。

京 立 交 亡 夜 外 多 冬

ヒント!

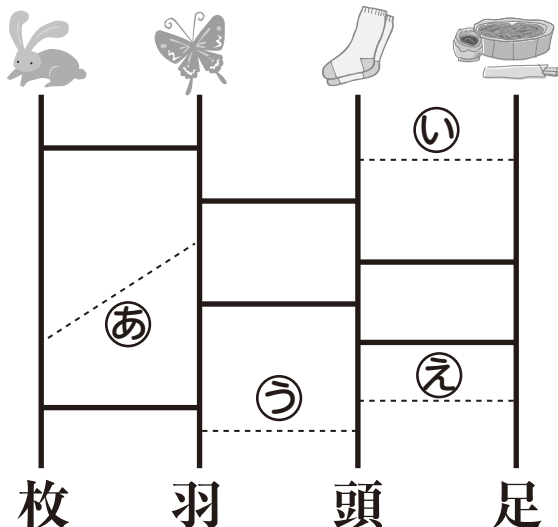
季節の変わり目を表す言葉です。

Q2

みんなのまわりにはいろいろなモノの数え方があります。次の①～④の数え方をあみだくじでたどります。

⑥～⑨のどの横棒を1本書き足すと正しい数え方(学術的)にたどりつくでしょうか。

①うさぎ ②ちょうちょ ③くつした ④ざるそば



親子ではてな

11月号のクイズ

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな？」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■9月号を読んで

「子どもの心のコーチング」マネージャー・スポンサー・コーチに例えた親の役割が分かりやすかったです。最後まで読んで、反省すべき内容が多くありました。実際に講演を聞いてみたいです。 MYさん

お弁当の日があります。一人で作れるか心配です。なんでもいから、簡単に一人で作れるおかず一品教えてほしいです。お弁当をつめるコツも知りたいです。 ARさん

「言霊」は意識しておりますが、「子どもの心のコーチング」や「子の思い」にもありました。言葉は大切。言葉による違いを改めて考えさせて頂きました。次号も楽しみに応援しております。 NKさん

夏休み前に5年生だけ着衣泳があったのですが、低学年から出来ないのかなと思いました。 KMさん

子ども2人で18年間、「わが子のあゆみ」に助けられています。今回は「子どもの心のコーチング」をゆっくり、かみしめて読みました。中3の娘は「おはよう」と声をかけると「ウーン」と怒って返事し、ドタドタと音を立てて降りてきます。「御飯よ～」と言っても、怒りながら降りてきます。プラスの言葉がけの前で、親はヘコんでしまいます。…???で考えてます。 MNさん

特集読みました。いじめの特集もお願いします。わが子も、小学校から中学に進学して校区も違ったりして、かなり苦しみました。 KNさん

私の学校のことがのっていたのでうれしかったです。私も学校でなしの勉強をしました。大垣のなしはおいしかったです。 OOさん

■編集後記

10月24日、25日の2日間、第70回東海北陸ブロックPTA研究大会岐阜大会in下呂が開催されました。2,600人もの方々が下呂市へ集合して、分科会・全体会を通してPTAの活動、子ども達の環境整備について意見交流をしました。全体会場となった下呂交流会館で、今年で63年目を迎える本誌「わが子のあゆみ展」を開催しました。昭和26年創刊当時の表紙を展示し、その年の主な内容や傾向を短く紹介しました。

調べているうちに昭和31年5月号の記事に目がとまりました。当時、岐阜県PTA連合会の名称は岐阜県連合育友会でした。巻頭に「日本の家庭には、真の意味の教育技術は少ないといわれる。言って聞かせることと、叱ることと、たたくことと。真の教育技術とは、言って聞かせなくても、叱らなくても、たたかなくても、子どもが自主的によい生活をするようになる心理的な扱いのことである。」と掲げてありました。そして「育友会は、みんなの子どもをみんなの手で教育する会である。育友会は、自己教育(成人教育)のための会である。」として「1・子どものために、直接奉仕してやること、2・子どもの環境を良くしてやること、3・自分を教育のできる人間にすること」の3つを育友会の仕事として挙げています。60年前に書かれた記事は、今になっても生きていることを強く感じました。

また「まず子どもを信用してかろう。日々の勉強にしても作業にしても、親と言うものは、特に母親は子どもの顔さえ見れば訓戒をする事を忘れない。これはよいことのように、実はよいことではない。ある人いわく。大人と言うものは、人を教育することが好きで、教育されることのきらいな人間であると。まさしく、何とPTAの授業参観の日の如何に出席がよく、研修会の出席の悪きことよ…」。

これも生きているなら耳の痛い話です。当らずとも遠からず、でしょうか。

■なぞなぞの答え

先生の家

(1メートルは1,000センチ)

■1月号のお知らせ(予告)

特集・地域の中で共に生きる～居住地交流、障がいの有無を超えて／表紙＝脇の島小／学校の宝物＝鷺山小・牛牧小・岩滝小・東部中／私の宝物＝東野小／お弁当の日＝古川西小／家庭教育応援団＝県教育委員会社会教育文化課／シリーズ「療育」＝下呂特別支援学校／保健室ノート＝羽島中／私の先生＝土岐津中／子育て半生記＝河合小／ボランティアニュース＝旭小・東明小・東可児中・蘇南中／私が出会った一冊の本＝春里小・揖東中／わが家のルール＝一之瀬小・青山中／ふるさとの伝承＝白川中／我が部活＝長森南中／私たちのPTA＝赤坂小／きらり!キッズ!＝八幡小／作文＝正木小・養正小・高田中・本田小・双葉中・北方小・朝日中／お試しクッキング＝岐阜県学校栄養士会

わが子のあゆみ

平成26年11月1日 発行
初冬号 第66巻3号
通巻435号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内

電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259

ホームページ／<http://www.g-pta.com>

Eメール／info@g-pta.com

印刷／サンメッセ株式会社

★お試しクッキング★

りんごの カップケーキ



材料 4人分

- | | | | |
|--------------|------|--------------|------|
| ・米粉 | 80g | ・上白糖 | 大さじ2 |
| ・りんご | 1/4個 | ・牛乳 | 大さじ2 |
| ・卵 | 1個 | ・シナモン粉 | 少々 |
| ・マーガリン | 4g | | |

最近はお米を使用した料理として、米粉パン、米粉のピザ、米粉のケーキなど、米粉が注目されています。製粉技術の進歩によって、以前よりもキメの細かい粉ができるようになってきたことで、その利用法も広がっています。

学校給食においても、岐阜県産の「ハツシモ」を使って米粉が作られています。そして、米粉パン、カップケーキ、蒸しパンの他に、揚げ物の衣や、ルウなどにも幅広く活用しています。

米粉で作るパンやケーキはみなさんもお存じの通り、もっちりとした食感になります。また、揚げ物の衣に使用するとサクサクとしており、さらに油の吸収率が低いためヘルシーです。

今回のカップケーキには、飛騨地方で栽培されている「りんご」を使用しました。もっちりとしたケーキにりんごのシャキシャキとした食感と甘酸っぱい味が楽しめます。さつまいもやくり・かぼちゃなどの食材でも試してみてください。

作り方

- 1 りんごは縦に1/8に切り皮をむき、5mm程度の厚さにスライスする。(変色しないように、レモン汁を入れた水または塩をいれた水につけておく。)
 - 2 溶かしたマーガリンと卵を混ぜ合わせる。
 - 3 2に米粉と砂糖を入れ、混ぜ合わせる。
 - 4 牛乳を入れ、固さを調節する。
 - 5 4に1の水気をきったりんごとシナモンを入れ、混ぜ合わせる。
 - 6 オーブン用の紙カップに5の種を入れ、200℃に熱したオーブンで、15〜20分焼く。
- ※蒸し器を使って蒸しパンにしても、ふんわりとしておいしくです。

●栄養価(1人分)

エネルギー	110kcal
たんぱく質	3.2g
脂質	2.3g
カルシウム	15mg
鉄	0.4mg
亜鉛	0.7mg
ビタミンA	18μgRE
ビタミンB ₁	0.03mg
ビタミンB ₂	0.05mg
ビタミンC	1mg
食物繊維	0.4g
塩分相当量	0g



本校は養老山地の東山麓部に位置し、校区には、環境省によって絶滅危惧種に指定されている国の天然記念物であるハリヨが生息する「清水池」があります。「清水池」では、養老山系の伏流水が湧き出し、水温は十六〜十八度と一定しており、ハリヨの生息に最適な水温と水量が維持されています。

ハリヨはトゲウオ科に属し、流れのゆるやかな浅瀬で巣を作り、子を育てる習性があり、夏の水温が二十度以上にならない澄んだきれいな淡水に生息する魚です。

校区にこのような自然がある本校では、三年生の子ども達が総合的な学習時間において「人・自然との関わり〜地域の生き物〜」をテーマにして、天然記念物であるハリヨの生態と地域を流れる津屋川（養老山地の複合扇状地の扇端に沿って、養老山地から流れ出るいくつかの流れを合流しながら南西に流れている川）を調べる活動を行い、地域を愛する心を育てています。

子ども達は、二年生時において、上級生の三年生が調べたことや調べて分かったこと、感じたことを発表会の場で聞きます。三年生になった時は、それも参考にしなが自分達で調べていくことを決めて、学習を進めています。

学習活動は、はじめにハリヨの生態や生息する環境について、インターネットや文献、前年度の発表資料などを使って調べています。同時に、清水池（学校ではハリヨが棲む池ということ）で、「ハリヨの池」と呼



▲地域の自然に親しむ：川に棲む生き物見つけ

ハリヨを見守り、 ふるさを愛する心を育てる伝承活動

んでいます。)での校外学習を計画して、実際に観察を行っています。但し、特別天然記念物ですので、池の中に入ったり、たもを使って採取したりすることはできません。すべて池岸の水面からの観察となってしまうです。それでも、子ども達はハリヨを見つけると、ハリヨが驚かないようにそっと顔を近づけながら、観察をしています。

また、ハリヨだけでなく、校区を流れる津屋川にも出かけ、土木事務所の人の協力も得ながら生息する生き物の観察を行い、地域の自然に触れています。

このように、本校の子ども達は、国の特別天然記念物のハリヨの探究活動や地域の自然を調べ触れる活動を通して、地域の豊かな自然を感じ取っています。郷土をより詳しく知ること、ふるさと下多度を愛する心を育むことを願っています。



▲下級生にふるさと学習の伝承



▲地域の人から学ぶ



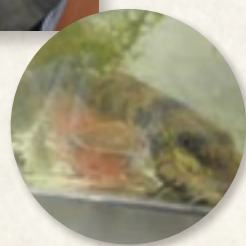
▲清水池(ハリヨの池)の観察



▲土木事務所の方の指導で川探検



▲津屋川の生き物見つけ



笑顔があふれる南小に!

きらい! キッズ!

山県市立伊自良南小学校

山県市立伊自良南小学校は、たんぽぽ学級と各学年単学級の全七学級、全校児童百二十四名の学校です。笑顔があふれる学校を目指すという願いを児童会がスローガンに込め、「あいさつ」「歌声」「そうじ」を学校の宝物にしようという頑張っています。ここでは、この3つの取組について紹介します。

心に響き合う歌声

「南っ子音楽会」

平成十七年度に「南っ子発表会」から名称を変更して実施している「南っ子音楽会」は、一学期の運動会と肩を並べる大きな行事となっています。毎年十一月下旬に開催されているのですが、会場となる花咲きホールは保護者と地域の方で満員になります。頑張りが良さを子どもたちが認められたり認め合ったりすることで、自分に自信をもち、仲間や学校に誇りをもつことにつながっています。

合唱を高めるために、月に二回の音楽集会の中で他学年のよさを見つかったり、音楽主任の先生から指導を受けたりしています。さらに音楽会に向けては、平成十七年度まで本校に校長先生として勤務してみえた大沼先生に合唱指導に来ていただいています。おかげで毎朝さわやかな歌声が廊下に響いています。

本気でそうじ

「もくピ力掃除」

三十年が経つ校舎は新しく美しいとはいえません。しかし、お客様から「築三十年にしてはきれい!ほこりやごみがなく手入れがされている感じがする。」と言われるとうれしいものです。それは、黙々と働き、ピカピカになるまで磨くという「もくピ力掃除」を子どもたちが続けてきたからです。これからも磨かれた美しさを学校の宝物としていきます。

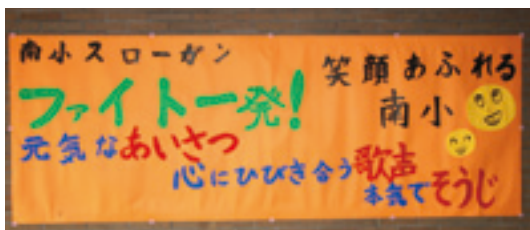
元気なあいさつ

「いつでも、どこでも、誰にでも、何度でも」を合い言葉に立ち止まり、お辞儀をして「おはようございます。」そんな子ども



南っ子音楽会

前日には、6年生による進行練習なども含めてリハーサルを行い本番に臨みます。職員合唱もなかなかの人気です。今年度は11月22日の開催です。



歌声



全校での音楽集会

月2回の音楽集会では「今月の歌」を全校で合唱します。7月の歌は「ドレミの歌」でしたが、振り付けをしながら全校で合唱し楽しみました。

もたちの姿に転入してきた職員が感激をする姿が今年度も見られました。PTA学級母親委員会のあいさつ運動もありますが、児童会としてもありさつ運動を行いました。一学期は計画委員会が中心となり「フアイト一発、あいさつキャンペーン」を展開し、元気なあいさつを全校に広めました。



ていねいに、きめ細かく掃除しています。低学年でも高学年でも、この心構えは同じです。

今回は、児童会として大切に行っている三つの取組について紹介しました。「南小大好きやもん」と、たんぽぽ学級の仲間が全校の笑顔をリードしてくれていることも自慢です。「チャレンジ南小！」を合言葉に、伊自良南小の一人残らず全員が笑顔で「南小大好き！」と胸を張って言い切れる学校を目指していきます。

そうじ

もくピカ名人
ひざをつき黙々と磨く姿からは、自分たちの学校をきれいにしようとする本気の心が伝わってきます。



児童会計画委員会があいさつの標語を募集し、優秀作品をブラカードにしてあいさつ運動を行いました。



PTA学級母親委員会でもあいさつ運動を展開。委員さんからも子どもたちからも「おはようございます。」という元気なあいさつが聞こえました。

あいさつ

立ち止まりお辞儀をして「おはようございます。」という姿は珍しくありません。





夢中! 熱中! 我らが部活

熱く燃え上がる『城南中魂』

海津市立城南中学校

ソフトテニス部男子



ソフトテニス部男子は、現在16人で活動しています。練習や試合では、「声を出すこと」「走って移動すること」「道具を大切に扱うこと」「心を込めて挨拶をすること」を常に意識しています。練習中に互いに声をかけ合い、アドバイスをし合ったり、励まし合ったりしながら、公式戦で1つでも多く勝ち進むために努力しています。

ソフトテニス部女子



ソフトテニス部女子は、現在21人で活動しています。今年の海津市中学校体育大会では、団体戦で優勝しました。プレイする選手と応援する人達の心が一つにまとまって闘った結果、手にした勝利でした。新チームでも、21人が声をかけ合って、全力でプレイする姿を目指し、日々の練習に励んでいます。今年は、団体戦だけでなく個人戦でも、一人一人が力を出し切って、西濃大会や県大会出場を目標としていきたいです。

サッカー部



サッカー部は、現在13人で活動しています。「県大会 出場」を目標として、日々の練習を頑張っています。練習や試合で辛くなったときは、声を出して動くことで最後まであきらめず、やり抜くようにしています。技術面も大切ですが、声とやる気だけはどこにも負けないことを一番大切にしてチームづくりをしています。

野球部



野球部は、現在19人で活動しています。仲間とともに、試合に勝つための練習に一生懸命取り組んでいます。道具の整理や礼儀を大切に、支えてくださる全ての人への感謝の気持ちをもって活動しています。仲間と切磋琢磨し、刺激し合いながら、高め合い支え合う最高のチームを目指して、これからも日々の活動に、全員で、全力で取り組んでいます。

バスケットボール部女子



バスケットボール部女子は、現在14人で活動しています。「笑顔、全力、礼儀」を合言葉に日々の練習をしています。「どんな苦しい試合でも笑顔で仲間と励まし合うこと」「練習から常に全力で取り組むこと」「練習・試合ができることに感謝し、周りの方に礼儀をしますこと」を大切にしています。そして、市大会優勝、西濃大会1回戦突破を目標にチャレンジしています。

バスケットボール部男子



バスケットボール部男子は、現在18人で活動しています。学年に関係なく仲が良く、休憩時間には他学年の仲間と話したり、プレイしたりしています。しかし、練習が始まると走って集合するなど、けじめのある行動を心がけています。毎日の練習はつらいですが、県大会に出場してよい成績が残せるよう、みんなで一生懸命に頑張っています。

卓球部男子



卓球部男子は、現在13人で活動しています。だんだんとチームとしての形が見え始め、2年生は優しく根気よく1年生に指導し、1年生はやる

気満々で練習に取り組み、部に活気を与えています。休憩時間中でも練習しようと、コーチに声をかけるなど、卓球好きな姿が部の自慢です。

これからチームで協力し、真剣に取り組んでいきます。

卓球部女子

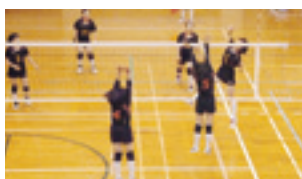


卓球部女子は、現在23人で活動しています。3人のコーチに支えられ、来年の中体連県大会出場に向け、練習メニューも新しくして、新チームでがんばっています。技術

面だけではなく、礼儀やチームワーク、応援も強化して、いこうと、団体戦の模擬戦をするなど取り組んでいます。

一つでも多くの試合に勝てる、団結した強いチームを目指します。

バレーボール部女子



バレーボール部女子は、現在11名で活動しています。「練習から大きな声を出すこと」「けじめをつけること」「集中すること」を大切に「西

濃大会ベスト8」をめざし日ごろの練習に取り組んでいます。バレーボールはチームで行う競技なので、練習から声をかけ合ったり、片づけや準備は必ず全員で行ったりして、チームの絆を深めています。

さらに実戦力を高め、本番でも思いっきり戦えるチームになれるよう頑張ります。

剣道部



剣道部は、現在6人で活動しています。基本を大切に素振りのひと振りひと振りを真剣に取り組むようにしています。また、「声を出す」「技をつなげる」ことを意識して練

習しています。剣道部は少人数なので、代々先輩が手厚く後輩の世話をしてきました。この礼儀を重んじながらの人間関係は誇れることでもあります。

文化部



文化部は、現在11人で活動しています。パソコンのキーボードタイピングを中心に練習を行っています。毎年、6月と11月に行われるパソコン検定速度部門の

4級以上合格を目指しています。6月の検定で4級と3級に合格することができ、今年度は、更に2級への合格も目標にしています。



私たちのPTA

瑞浪市立瑞陵中学校

PTAの活動方針

未来を切り拓く心豊かでたくましい子どももの育成

学校紹介

瑞浪市は、岐阜県の南東部に位置し、室町時代の創業といわれる美濃焼を中心発展しました。中山道の宿場町、化石がとれることでも知られる歴史と文化のまちです。

本校は市中心部にほど近い丘陵地にあり、周辺には緑が多く残り環境に大変恵まれております。昭和三十六年に土岐中学、明世中学の統合により開校し、昭和三十八年に現在の位置に校舎が完成しました。

学級数十一、生徒数二百九十二名で、土岐、明世の二小学校区からなります。宅地開発により人口増加の著しい地区もありますが、生徒数は年々減少傾向にあり、平成三十一年度には北部、東部地域の二校との統合が予定されています。

保護者には本校の卒業生も多く、地域の方々も学校教育に対する関心が高く協力的です。生徒も地域の行事に積極的に参加し、地域社会で活躍する姿を見ることができます。

「内観専心」を校訓とし、自分を見つめ、目標を決め、心を集中してやり抜く生徒を目指しています。

PTA組織

各活動の運営主体となるのは、本部役員が長となっている、総務、校外指導、広報、厚生、母親の各委員会で、それぞれ生徒及び親同士のつながりを深める活動をしています。

委員会構成

委員会名	人数	主な活動内容
総務委員会	八名	資源回収
校外指導委員会	八名	交通安全指導
広報委員会	八名	広報発行
厚生委員会	八名	環境整備作業
母親委員会	二十名	高校見学会 研修会等



資源回収：小中学校合同で2会場の集積場に集まります。男子中学生は力があります。高く積み上がり大人もびっくりです！



主な活動の紹介

資源回収（総務委員会）

年二回開催していますが、生徒数の減少により、平成二十五年より小学校と合同で開催しています。中学生は各地区と集積場で保護者とともに作業します。力のある中学生は大活躍です。

環境整備作業（厚生委員会）

夏休みに一年生の生徒と保護者が学校の窓ふき、ワックスがけ、草刈、剪定、側溝の土砂出しなどを共同で行います。毎年、暑い時期の作業ですが、作業終了後はきれいになった学校を見て、みなさん達成感を味わっています。

高校見学会（母親委員会）

毎年、高校見学会を開催し約五十名の参加があります。三校を見学しますが、各高校それぞれ特色があり、先生方の熱心な思いが伝わってきます。学食で昼食をいただき、時には授業に飛び入り参加することもあります。日常まちで見かける高校生からでは想像できない発見が多くあります。

フラワーアレンジメント講座

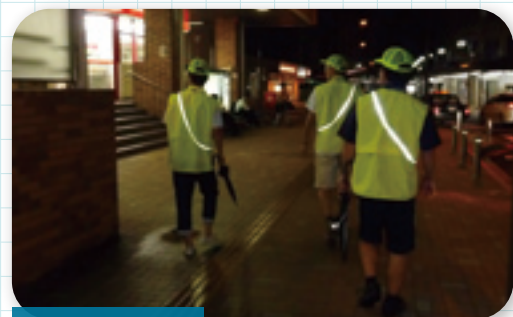
（母親委員会）

三年生の保護者、母親委員会を中心にフラワーアレンジメントと、三年生が卒業式で胸に飾るコサージュをつくります。卒業後それぞれの道を歩む生徒一人ひとりに希望と期待を込めてみなさん一生懸命です。

フラワーアレンジメント講座
父親もコサージュづくりが
あります！



環境整備作業
親子で汗を流します！



校外指導委員会
駅前をパトロール中！



防災訓練にボランティアとして参加しています



地域の伝統文化を継承しています

中学生の地域参加
瑞陵中学校区では、地域行事がたくさん行われ多くの中学生が参加しています。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

美濃市立美濃中学校



1年生 郡上研修

4月末にバンガローでの宿泊を行い、仲間づくりをしました。調理やハイキング、学年レクリエーションを通して、仲間の良さを見つけました。



1年生 大縄跳び大会

学年行事で学級対抗大縄跳びを行いました。声を大きく出し、動きをそろえる。リーダー、回し手、跳び手、それぞれの気持ちを一つにし、さらに学級がまとまりました。



2年生 答志島研修

5月に民宿にて宿泊研修をしました。漁村体験や民宿の方のお話を聞いて、生き方について学びました。学年レクリエーションも行い、学級の仲間意識の高揚を図りました。



2年生 職場体験

夏休みに美濃市内の事業所を中心に職場体験を行いました。働くことの厳しさはもちろん、楽しさ、生きがいなどを事業所の方の姿から学びました。



3年生 首都研修

6月に東京へ修学旅行に行きました。現地の商店街の協力を得て、美濃の特産物を販売したり、「流しにわか」を披露したりして、美濃のよさを発信しました。



3年生 体育大会練習

「連脚」は、3年生の団結力を示す種目の1つ。最初は一歩も前に進めない状態から、歩けるようになり、走れるようになって、スピードを上げられるようになると、心の絆も一層深まります。

わが子のあゆみ

2014.11 No.435 初冬号
第66巻3号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ